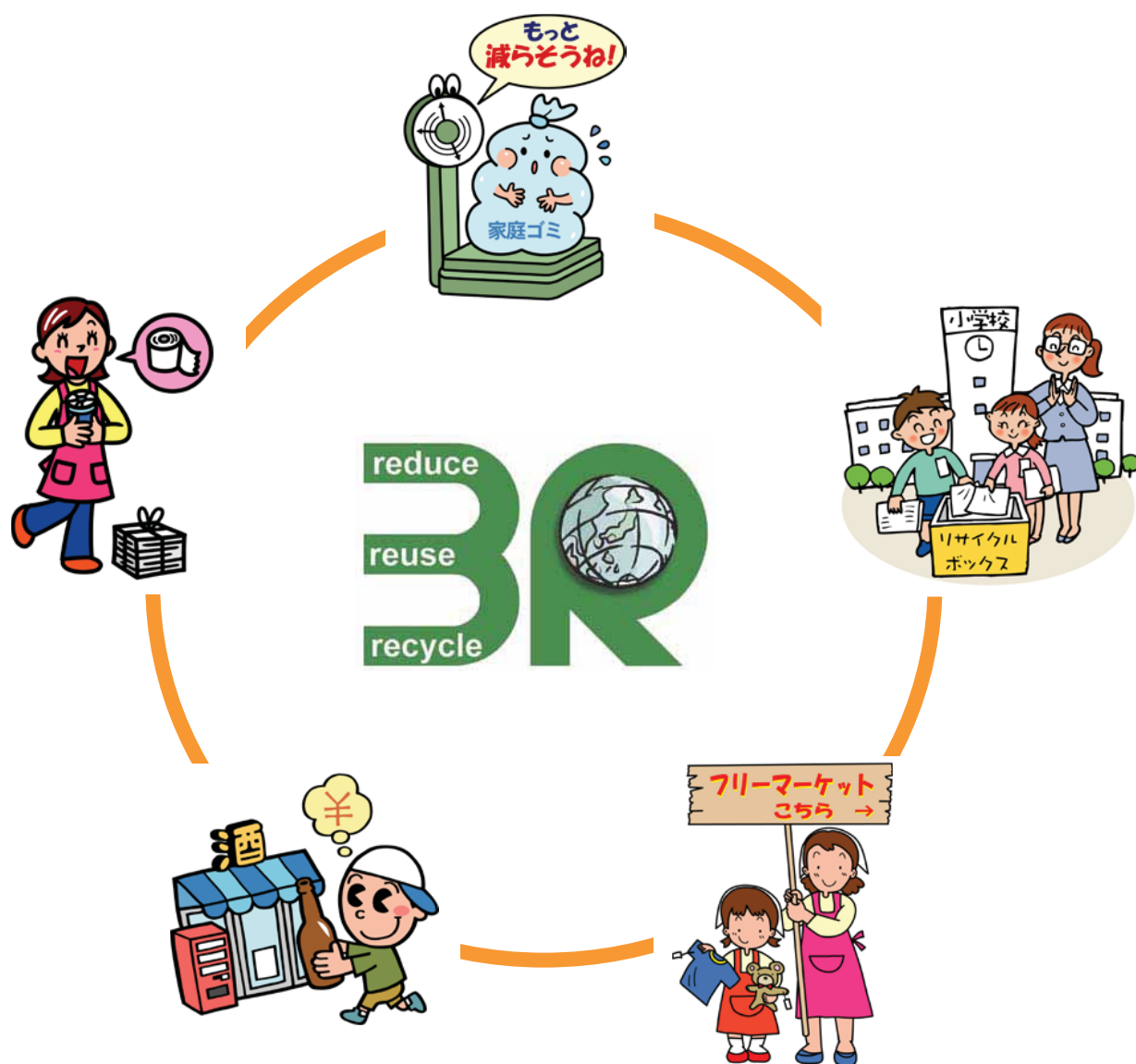


自治体・団体の 3R啓発活動事例集



平成 24 年 3 月

3 R 活動推進フォーラム

はじめに

わが国は、平成 16 年の G8 シーアイランドサミットで、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）を推進する 3 R（スリーアール）イニシアティブを提唱して以来、内外において積極的に 3 R を推進する取組を進めています。

こうした国の方針を受けて、地方自治体や民間団体では、3 R の普及・啓発のために、キャラクターやグッズを作成してのキャンペーン、展示会やセミナーなどのイベント開催等、さまざまな取組を行っています。

しかし一方で、3 R の普及・啓発活動について、地方自治体や民間団体においてはより効果的な取組や啓発ツール等を模索している実情が見受けられます。

そこで、3 R 活動推進フォーラムでは、3 R 普及・啓発活動の意義について専門家の方にご執筆いただくとともに、地方自治体や民間団体にご協力いただき、啓発活動の事例及び課題や要望についてのアンケート調査結果の取りまとめを行いました。

本事例集が、3 R の啓発・普及活動に取り組まれている関係者の皆様のご参考となれば幸いです。

平成 24 年 3 月

3 R 活動推進フォーラム

専任理事 八木美雄

目 次

第1章	3R啓発活動の意義	1
	自治体の3R普及啓発活動とコミュニケーション	
	(株)ダイナックス都市環境研究所 所長 山本耕平	2
	持続可能な社会に向けた環境教育	
	NPO法人環境文明21 共同代表 藤村コノエ	6
第2章	キャラクター	11
第3章	啓発グッズ	31
第4章	イベント等	41
第5章	アンケート結果の概要	59
資料編	(関係団体連絡先)	65

第1章 3R普及・啓発活動の意義

◇ 自治体の3R普及啓発活動とコミュニケーション

(株)ダイナックス都市環境研究所
所長 山本耕平

◇ 持続可能な社会に向けた環境教育

(NPO)環境文明21
共同代表 藤村コノエ

自治体の3R普及啓発活動とコミュニケーション

(株)ダイナックス都市環境研究所
所長 山本耕平

はじめに

広報 (Public Relations) とは、組織等が広く一般公衆に伝えたい情報を発信し、伝えることである。民間企業では商品をアピールして消費者の購買心を高めるための「広告」 (Advertisement) と、企業活動の「広報」は区別して取り扱われるが、行政では行政サービスの「広告」が行われることは少なく、お知らせするという意味での「広報」がほとんどである。ただし「PR活動」という場合には、広告・宣伝的な意味合いが含まれる。

Public Relations の概念は、戦後の民主化政策の一環としてわが国に導入された。Public Relations は、文字通り組織 (行政) と一般公衆 (国民、市民) との双方向の関係を意味しているが、日本では広報と広聴というように別々に考えられてきたようだ。

ところで、最近では広報という言葉より「啓発」という言葉がよく使われる。啓発とは「知識をひらきおこし理解を深めること」 (広辞苑) で、英語では Education、すなわち教育することという意味になる。

言葉遊びをするつもりではないのだが、行政の広報に関して用語の使い方が少しずつ変わってきたのは、市民に情報提供する姿勢や手法が変わってきたからではなかろうか。

ごみの収集方法は非常に複雑になったために、広報活動はきわめて重要になっている。容器法の運用上、自治体が選別・圧縮などを行った容器包装廃棄物は、異物の混入など質が悪い場合は引き取りを拒否されることがある。排出源での分別の徹底が品質の善し悪しに直結するので、市民にきちんと分別してもらうようPRすることは何よりも重要になっているわけである。

2. ごみの分別と広報

周知のように分別の方法は自治体によって異なる。ごみの出し方や分別の仕方は自治体ごとのルールとして定められている。しかし行政サイドからはルールであっても、市民にとってはいわば「生活習慣」である。間違った習慣が身につけてしまうと、知らないうちにルール違反をしてしまうということもありがちなことだ。いつもルール違反をしている人を問いただすと、単なる勘違いであったり転居前の自治体のルールにしたがっていたりするという話はよくあることだ。勤務先のルールと居住地のルールが違うということも多い。それぞれの自治体が「わが町のルール」をPRしても、情報を受け取る側では混乱する一方である。

分別のルール違反に対して罰則を設けている例もあるが、罰則はあくまで例外的な手法にすぎない。ルールを守ってもらうためには、そのルールがなぜ必要なのか、なぜそのようなルールを定めたのかを住民に理解してもらうことが不可欠である。理由の説明なしにルールや規則を押しつけても、徹底させることは難しい。このような意味から、一方的な広報だけでなく、住民との対話、コミュニケーションが重要になってくるのである。

問題のひとつはごみ出しのルールがあまりにも多様だということである。分別の方法は、分別ごとの「呼び方」からそれぞれの区分ごとの品目、排出する際の容器（あるいは袋）、収集回数など様々な「要素」の組み合わせによるので、組み合わせの可能性を考えると、一つとして同じ方法はないといっても過言ではないほどだ。

「資源ごみ」も同様だ。特に混乱しがちなのは、プラスチック製容器包装（いわゆる「容リプラ」）とその他紙製容器包装だ。容リプラとプラスチック製品を一緒に集めているところもあれば、マヨネーズやケチャップなど汚れを取りにくいものは可燃ごみに区分しているところがあるなど、自治体ごとにルールが違う。その他紙製容器包装は、容リ法にもとづかない「雑紙（ごつがみ）」という区分で雑誌や段ボールなどと一緒に集めている自治体が多い。これらはすべて製紙原料となる。そのため「紙」という表示があっても複合素材の紙製容器包装は可燃ごみに区分しているところが多く、排出する側にとっては法律で定められた紙製容器包装の表示は全く意味をなさない。

容リ法の仕組みが複雑だということが背景にあるが、ある程度はごみに関する知識がなければ守れないほど複雑で細かいルールになっているので、広報活動もそのことを前提として工夫しなければならない。ごみカレンダーや分別事典の発行、インターネットの検索機能を利用して品名を入れると分別区分が検索できるようなシステムをつくっているところもある。古典的な手段としては、説明会やステーションでの立ち番など直接コミュニケーションをとる方法が効果的なようである。

3. 啓発活動の意味

分別収集、リサイクルは行政の事業に対して市民の協力を呼びかけるもので、情報発信側と受け手側すなわち行政と市民の二者のコミュニケーションである。3Rは行政の事業だけでなく、民間の活動を包含するので、行政と市民、民間事業者の三者のコミュニケーションを考えていかなければならない。また民間事業者には生産、流通、リサイクラーなど多様な事業者があり、NPOなどの取り組みも大きな役割を担っている。そういうことから、行政からの一方的情報提供のニュアンスが強い広報ではなく、啓発という言葉が広まった（ついでながら、啓蒙という語は「蒙（くらやみの意）を啓いて人々を導くこと」で、上から目線の用語なので、最近では行政文書としては使われなくなった）。

3Rの推進には、それぞれの主体の意識変革や市民・消費者の消費行動、生活スタイルの転換が求められる。容器の使い捨てという利便を捨てて、販売店までリユース容器を持参したり返却したりするというエネルギーは、それに見合うだけの相当の経済的メリットが

なければ沸いてこないだろう。またそのような経済的インセンティブを与える仕組みの構築は、現実には難しい。

したがって市民の行動を変革する重要なモチベーションとして、環境を守ろうとする意識をいかに高めていくかが重要になる。利便性をすべて捨ててしまうのではなく、TPOに応じて容器を選択したり、可能な範囲でリユース容器を使う。「いつでもどこでも使い捨て」はやめよう、その行為が積み重なって深刻なごみ問題、環境問題につながっているということを教えるのは教育の役割だ。環境教育では「気づき」がもっとも重要とされ、知識の習得はその後だ。行動に結びつけていくためには主体的に考えることが必要で、そのためには自らが問題に気づくことから始めなければならない。

啓発活動として大きな成果を上げている例が、横浜市資源リサイクル事業協同組合が主催している「環境絵日記コンクール」と「リサイクルデザインフォーラム」だ。横浜市内小学生を対象に、絵日記という形で3Rや地球環境問題について作品を募集しているもので、2000年に始まり2011年の応募数は18690点で、市立小学校の児童数の1割近い。世帯数と考えれば、市民啓発としての効果は大きい。フォーラムは絵日記の展示、表彰、子供向けのパフォーマンスや体験学習など多彩なプログラムが用意されており、約1万人の来場者があるという。市の資源循環局や温暖化対策本部、教育委員会などの行政機関のほか、多数の民間企業が協賛、協力する大規模なイベントに成長している。(インターネットでは「リサイクルデザイン」で検索)



環境絵日記の入選作

4. 3Rガバナンスとコミュニケーション

3Rを推進するための政策は、規制や義務づけでは十分ではない。特にリユース、リデュースは規制的な措置では困難だ。重要なことはガバナンスだ。ガバナンスというのは、社会を構成するいろいろな主体（行政も含む）が協力して社会を統治するということである。3Rに敷衍していえば「3Rガバナンス」ということになる。

3Rガバナンス構築のためには、主体間のコミュニケーションが最も重要である。そのためには社会的な基盤として情報共有できるような仕組みを構築していくことが必要である。インターネットが社会変革の大きなツールになっていることは説明するまでもないが、3Rガバナンスという観点から言えば、まだ行政情報や企業情報の公開度は十分とは言えないかもしれない。政策を論ずるためには、統計など基本的な情報が公開されていなければならないのである。キャラクターやグッズで市民の関心（歓心？）を集めることも重要だが、3Rガバナンスの基盤として、情報共有の仕組みをつくっていくことが必要だ。

インターネット上でバーチャルなプラットフォームをつくっている例がいくつかある。横浜市は2011年に新しい一般廃棄物処理基本計画を策定し「ヨコハマ3R夢（スリム）プラン」と名付けている。この中で、リデュースに対する取り組みとして「ヨコハマR（リデュース）ひろば」と名付けたプラットフォームをつくっている。今までバラバラに行われていた取り組みや、少数の人だけが持っていた知識を、ヨコハマRひろばで共有し、結びつけることでより大きく効果的な取り組みを産み出していくことをねらいとしている。NPOや民間のいろいろな事業者のアイデアや新しい取り組みをコアとなるヨコハマR（リデュース）委員会で検討した上で、ホームページ上などで情報発信し、各主体がみんなで応援していこうという仕組みだ。マイボトルの普及、ノン・トレ販、子供靴の回収など、具体的なプロジェクトがいくつか動き出している。

行政の広報や啓発活動は、一方的な宣伝活動すなわちプロパガンダであってはならない。3Rへのモチベーションを高めるためには主体間のコミュニケーションと協働が不可欠であり、「ゆるキャラ」や「グッズ」でコミュニケーションのきっかけをつくったあとが重要である。

持続可能な社会に向けた環境教育

NPO法人環境文明 21

共同代表 藤村コノエ

はじめに

持続可能な社会構築にむけた環境教育の重要性が言われるようになって久しい。

しかし、実際には、異常気象の多発、世界的な経済危機と雇用不安など、「環境」「経済」「人間・社会」のあらゆる面で持続性は失われつつあり、持続可能な社会はますます遠のいているように思える。勿論、その原因が環境教育だけにあるわけではない。有限な地球環境の中で、量的成長を重視してきた政治、経済等そのものがうまく機能しなくなっていること、これまでの価値観にとらわれ、それらに替わる新しい枠組みへのチャレンジをなおざりにしてきたこと等、全ての人と社会にその責任はあると思われる。

しかし、永年、環境教育に携わってきた筆者としては、こうした社会基盤や価値観の見直しと併せて、これまでの環境教育・啓発活動を見直す責任があると考えている。

そこでここでは、本当に必要とされる環境教育とは何か、特にごみゼロ社会に向けた環境教育のポイントについて私見を述べてみたい。

1. 本当に求められる環境教育とは

筆者は、環境教育を、「有限な地球環境の中で、人々の幸福と社会の持続性を確保するために、人としてどう生きていくのか、社会経済はどうあるべきかを考え、その実現に向けて行動する人間を育成する全ての教育・学習」と考えている。そしてそれをベースに、永年、主に市民・企業に対する環境教育を実施してきた。そうした中で、日本の環境教育に圧倒的に不足しているのは、社会を変える力を育てる環境教育だと感じている。持続可能な社会を築く上で、個人のライフスタイルを変えることは当然必要である。そのため、例えば、ゴミを減らそう、節水・節電をしようなど、個々の暮らし方の変更を求める普及啓発活動がこれまで盛んに行われてきた。また学校教育においては、これらに加えて自然環境教育に重きが置かれてきた。そして現在もそれは続いている。勿論、こうした行動が基盤であり、それを促す普及啓発活動が必要なことは言うまでもない。特に子どもたちに生活習慣を身につけさせたり感性を育むためには必須である。しかし、残念ながら、これだけでは、現在の環境問題を解決することは極めて困難である。例えば、地球温暖化については 2050 年には温室効果ガスを 80%削減することが求められているが、個々の暮らしでどんなに頑張っても到底達成できるものではない。地球環境や資源の有限性を認識し、大量生産・大量消費から「足るを知る」価値観に転換すること。併せて、政治を変え経済活動自体を見

直すために、投票行動や消費行動を変える、さらに地域の環境保全活動に参加する、環境政策作りに参加する、NPO 活動として政策提言を行うなど、社会を変える活動に自ら関わりその力を高めていくこと、それを促す教育が重要となる。しかし、明治以降の「お上意識」や戦後のお任せ民主主義は、学校現場にも一般社会にも大きく影響し、日本では公共意識や社会変革の力はあまり育っていないのが現状であり、このままでは持続可能な社会はますます遠のいてしまう恐れがある。今後、持続可能な社会を築いていくには、「個人から社会へ、学びから行動へ」を促す環境教育が鍵となる。

2. 3R・ゴミ減量にかかる環境教育の方向性

数年前になるが、環境文明 21 では、自治体で行われている「3R・ゴミ減量」に係る普及啓発の内容について調査したことがある。その結果、多くの自治体が「出たゴミをどうするか」の視点から、分別の具体的な方法や収集日時等を知らせるものであり、3Rで最も優先されるべき発生抑制（リデュース）に触れているところはごく限られていた。そこで、環境文明 21 では、17 の提案を行った。例えば、情報の中身として、次のような内容である。

提案 1 市民のやる気を促す情報（インセンティブ情報）を提供しよう。

- ①収集・運搬・処理・リサイクル・埋め立てなど各段階でどのような費用がかかっているか、処理に税金がどの程度使われているか、個々の商品の包装の値段など、コストや経済性に関する情報
- ②市の財政が厳しい中で、（新たな価値を何も生まない）ごみ処理にこんなに税金を使っているのか、市民のごみ減量行動が進めば、もっと他の事に税金が使えるではないか、という提言指向型の情報
- ③ごみ処理の現状や埋め立て処分場の逼迫した現状など、環境への危機感を持ってもらうための情報
- ④なぜごみ減量や分別が必要なのかなど、根源的な情報
- ⑤リサイクルされたものがどう処理されているか、分別後の行方に関する情報
- ⑥自分の地域の状況がどのレベルにあるのか知るため（基準を知るため）の、他地域との比較情報

等である。また、ごみ情報の心得・原則として、行政が知らせたい情報と市民が知りたい情報の両方を提供することや、他の環境情報との関連性、ポジティブな情報だけでなくネガティブ情報も併せて出すことなども提案した。

こうした提案の基本には、地球環境や資源の有限性という絶対的な認識と、「元を閉める」、すなわち、発生抑制以外に廃棄物問題の根本的解決策はないという信念がある。

しかし、廃棄物処理法の改正により 3R の順位付けが明確に打ち出されてから早 10 年以上が経過する現在でも、リサイクルとリユースはある程度進んだものの、リデュース（発生抑制）にはほとんど手がつけられておらず本質的な課題解決は先送りされたままである。

では、リデュースを進めるために、どのような環境教育が考えられるだろうか。

例えば、自治体では、広報の内容を上記提案のような形に変えていくことも一案である。また学校教育においては、ごみ問題を資源・エネルギー問題と結び付け、有限な地球環境中で限られた資源を有効に使うという教育や、先進国の人間として「足るを知る」「共生」の精神を身につける教育も必要であろう。

しかし、大量の資源を使ってモノを作り続ける限り、どんなに市民や行政が環境教育や普及啓発活動を行っても発生抑制はなかなか進まない。「環境に配慮した生産や事業活動が経済的にも成り立つ」ような税制の転換、規制の強化、経済的手法の導入など、社会システムそのものを変えていくこと、まさに個人的な努力に依存するのではなく、社会の仕組みそのものを変えていくことが肝要ではなかろうか。

そのために、例えば、ごみ減量のための市民・企業・行政の意見交換を継続的に行い、費用負担を含め、それぞれの役割などについて徹底的に討論する、それを条例等の形にして地域ぐるみで実践に移すようなことも必要であろう。私たち環境文明 21 では飲料自販機の適正設置を求めるモデル条例も作成・公表しているが、これも発生抑制の一助となる政策だと考えている。また発生抑制に努める企業を応援したり、「ゴミになるものは買わない」消費者になることも必要であろう。さらに国の施策についても、こうした地域での動きを踏まえ、NPO等市民団体が積極的に法案作りに関与することや地元選出議員に働きかけるようなことも考えられよう（ちなみに、今回改正された環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律では、協働取組の推進に重きが置かれ、国や自治体は政策形成に民意を反映させることや、国民や民間団体は政策提言ができることも明記されている）。

勿論市民が社会の仕組みを変えていくことは容易ではない。しかし、廃棄物そして消費と言う、私たちの誰もが関わる問題について、人任せにするのではなく、一人の市民として、消費者として、自らの問題として常に関心を持ち、自らの暮らしの中で、そして社会に向けて行動していく、そうした姿勢を育むことが大切なのだと思う。

おわりに

筆者が共同代表を務めるNPO法人環境文明 21 は、その名のとおり「環境の問題は文明の問題」ととらえ、地球温暖問題や廃棄物問題などを解決し、持続可能な社会を構築するには、大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした 20 世紀型文明そのものを見直す必要があると考えてきた。そして、2030 年の持続可能な社会を「環境文明社会」と名付け、地球の有限性を基本認識とし、持続性と豊かな人間性の確保を目指し、共生・互助・中庸等大切にされる価値を明確にした上で、「政治」「経済」「技術」「教育」など社会基盤の理想像と実現戦略、「食」「移動」「働き方」等の暮らしの姿と実現策について議論し取りまとめた。そして、議論の中でも、全ての基盤は「教育」という認識で一致している。（詳細は、<http://www.kanbun.org/>をご覧ください）

いつの時代でもそうであるように、教育が「人」の価値観を育み、その「人」が政治や

現在と持続可能な環境文明社会の違い

	現在	環境文明社会
【基本】		
基本となる価値	成長・効率・短期	有限・持続・長期
人と人の関係	競争	絆、互助・利他、多様性への寛容
主要エネルギー源	化石燃料	再生可能エネルギー
社会を動かすモチベーション	生存+利益 物質的豊かさ	生存+利益+利他 精神的豊かさ
【枠組み】		
教育	人材を格付けするための教育 経済重視の価値観による教育 画一的な教育	人間性（道徳、倫理、哲学）重視 地球の環境・資源の有限性への認識 将来世代や途上国への責任感の育成
政治	官僚主導 経済重視の政治 中央集権 国益の最優先	将来世代の声も反映する民主政治 環境を主軸に据えた政治 地域主権 地球レベルでの公平性
経済	大量生産・消費・廃棄経済 過度に試験を重視した経済 行きすぎたグローバルな自由市場経済	世代をまたぐ外部経済・不経済を 市場に内部化した経済 ローカル経済とグローバル経済の共存
技術	経済性重視の技術 偏った技術評価 非対称性	適正・脱石油技術 技術アセスメントによる評価 技術リテラシーと技術コミュニケーションの定着
【暮らし】		
食・農	食の産業化による効率性・利便性の重視 農業人口の高齢化・減少化 農地の商業的価値の重視（利権化）	食の安全・安定の確保と文化性の重視 産業としての「農」による雇用の確立 生業、娯楽としての多様な「農」の確立 農地の環境保全的価値の重視
住む	無秩序な開発 過度な密集で安全性が確保されないまち 利便性追求のまち	環境容量に配慮したまち 適度な集約度で真に効率的なまち 地域資源や文化を活用したまち
働く	失業者や非正規雇用の増大 企業に雇用される就労形態の偏重 格差の拡大	働く機会と場の保障 多様な働きかた NPO、社会的起業などでの雇用拡大
子育て	出生率の低下 親と社会の子育て力の減退	安心して産み育てられる環境 生きる力を育てる子育て 親と社会が連携して子育てする社会
移動する	利便性・効率（高速化）重視の交通網 くるま社会	利用者の利便性を重視した交通網 環境にやさしい交通手段
消費	コマーシャルに踊らされる大量消費 経済性重視の生産・流通	個人の意思に基づく適度な消費 グリーンな生産・流通
社会参加	低い公共意識と参加意識 役所任せ・人任せ	市民の高い公共意識・政治参加意識 NPOが活躍する市民社会
楽しむ	金銭で購入する娯楽 一人で楽しむ 利便性・快適性の追求	自ら生み出す楽しみ 人と自然との繋がり 文化・伝統・芸術の効用と価値への認識

経済、技術をつかさどることを考えれば、持続可能な社会の基盤は教育であることは言うまでもない。いまこそ、多くの学びを個人の暮らしだけでなく、社会の変革に役立てる行動に進化させる、先進国に生きる人間として将来世代や途上国への責任を自覚しその責任を果たせる人間を育成する、そうした環境教育を行政、企業、地域、学校の全ての場において充実させるべきであると考えている。

第2章 キャラクター

◇都道府県

青森県
福島県
群馬県
千葉県
新潟県
岐阜県
香川県
福岡県
熊本県
沖縄県

秋田県
栃木県
埼玉県
神奈川県
富山県
三重県
愛媛県
長崎県
大分県

◇市

仙台市
横浜市
相模原市
浜松市
大阪市
広島市
福岡市
船橋市

千葉市
川崎市
静岡市
名古屋市
神戸市
北九州市
川口市
佐賀市

◇民間団体

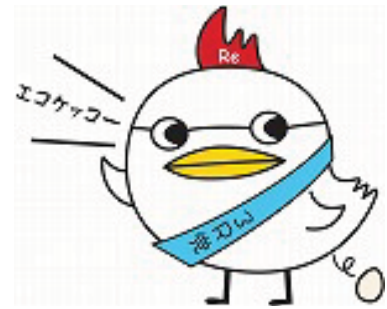
アルミ缶リサイクル協会
建設副産物リサイクル広報推進会議
スチール缶リサイクル協会

◇都道府県

青森県

○県民運動キャラクター「エッコー」

(1) 「もったいない・あおもり県民運動」は、県民や事業者、各種団体、行政など多様な主体がパートナーシップのもと、これまでのライフスタイルを見直し、「もったいない」の意識をもって、ごみの減量やリサイクルに取り組んでいこうという目的で、平成20年度にスタートした。その際に誕生した県民運動キャラクターが「エッコー」。



(2) 平成23年3月、青森県では新たな地球温暖化対策の指針となる「青森県地球温暖化対策推進計画」を策定し、あらゆる主体の連携・協働により低炭素社会づくりを目指すこととし、従来の取組を拡充し、日々の暮らしや事業活動の中で省エネなど低炭素社会づくりに向けた取組も合わせて県民運動として進めていくことにしている。

秋田県

○あすぴー

あ：あきた
す：ストップ温暖化
ぴ：ぴーぷる（県民みんなで）

秋田県における温暖化対策推進のマスコットキャラクターとしてH20年に公募により決定した。



○クリんちゃん

星やハートなどの3つのマークは、「花（ハート）・緑（葉）・夢（星）」を図案化したもので、これらのマークを人（私たち）が広げた両腕の中に抱える構図となっている。また、広げた両腕から飛び出そうとするマークは、私たちが自らの手で美化に取り組むことにより、未来に向かって秋田県の環境が向上していくことをイメージしている。



環境美化マスコット
「クリんちゃん」

福島県

○リーフィングル

ごみの減量化・リサイクルの推進のために活躍しています。愛称は緑の葉（Leaf、Leafy）とリサイクルをイメージしたものです。

○エコたん

レジ袋の削減をはじめ、地球環境にやさしい取り組みを紹介しています。

頭に乘せている葉っぱは「エコっぱ」と呼ばれています。



栃木県

○ぶんべつくん

【特技】ごみの分別

【誕生のいわれ】

ごみ問題に対して広く県民の関心を求め、身近な問題として認識してもらうことにより、ごみ減量化・再資源化を推進するため、平成6年度に一般公募したイメージキャラクターのなかで、最優秀に選ばれた作品です。またこのイメージキャラクターの愛称も平成7年度に一般公募し、最優秀に選ばれた「ぶんべつくん」に決定しました。



群馬県

○3R推進ぐんまちゃん

特定のキャラクターはないが、群馬県のキャラクターの「ぐんまちゃん」を使ったロゴマーク「3R推進ぐんまちゃん」を、計画の冊子や普及冊子、ホームページ等で使用している。

ぐんまちゃんは、群馬県のキャラクターとして、広く一般の県民に浸透しており、県民の誰からも愛されているキャラクターである。

群馬県では、県の様々な施策で、ぐんまちゃんを使ったイラストを使用し、施策の推進に役立っている。

3R推進やごみ減量についても、一般県民の印象に残り、ぐんまちゃんと共に取組を行ってもらうために、ぐんまちゃんを使ったロゴマークを使用して、普及啓発等PRに活用していきたい。



埼玉県

○マスコット コバトン

(1) 誕生のきっかけ

平成16年に埼玉県で開催された「第59回国民体育大会」をアピールするため、誰からも親しまれる「マスコットイメージ」を一般募集、応募総数795点の中から決定した。

国体終了後、コバトンの存続を望む声がたくさん県庁に寄せられたため、原作者よりコバトンに関する権利譲渡について承諾をいただいた。

平成17年1月4日には、知事から辞令を交付、正式に「埼玉県のマスコット」となった。

(2) マイボトル、マイバックを推進するためのコバトン

コバトン自体は原則として広聴広報課が管理しているが、資源循環推進課では、マイボトル、マイバックの利用等3Rを推進するためのコバトンを作成、管理している。



マイバック



マイボトル



マイボトル



地球

千葉県

○「ちばレジ袋削減エコスタイル」キャラクター：モラワン

マイバックをモチーフにした、親しみやすい犬のような架空の動物。

平成20年10月から開始した、千葉県全体でレジ袋を削減する取組「ちばレジ袋削減エコスタイル」（ちばレジエコ）を推進するためのマスコットキャラクター。

○「ちば食べきりエコスタイル」キャラクター：ノコサーヌ

ドギーバッグをモチーフにした、食欲旺盛な架空の動物。

平成21年度から開始した、食品ロスを減らし、食べきりを促進する取組「ちば食べきりエコスタイル」（ちば食べエコ）を推進するためのマスコットキャラクター。



「ちばレジエコ」、「ちば食べエコ」は、一人ひとりの意識次第で「誰でも、すぐに、簡単に」実践できる環境行動を通し、ごみを減らし、ものを大切にするライフスタイルへの転換を目指している。

神奈川県

○レジ袋削減のキャラクター「心太(しんた)」

レジ袋削減のキャラクター「心太(しんた)」は、「ところてん」と読むことから、ダイエットが連想されるため、レジ袋削減＝ダイエットと結びつき、地球のダイエットに繋がる。

県民の方が「環境に優しい生活スタイル」をはじめめるきっかけになればという願いから命名した。

また、キャッチフレーズは、県民から募集し、【持っていますエコの心と マイバッグ】の「心」にも通じる。



新潟県

○レジ袋削減県民運動キャラクター「エコニャン」

(1) 特徴の設定

県民ひとりひとりが「買い物でマイバッグを持ち、レジ袋を削減する」などちょっとしたエコ意識を持つことで、地球にエコを招くことを伝えている。

(2) 誕生のきっかけ

平成 20 年度に、レジ袋削減に取り組むことをきっかけとして、ごみの減量や二酸化炭素削減などの環境保全に対する県民意識を高め、「環境にやさしい生活」への転換を図るため、事業者や団体等と連携し、新潟県レジ袋削減県民運動を開始。

県民運動の普及啓発のため、キャラクターを作成。



富山県

○ジュンカンガルー

富山県循環型推進ポータルサイト「みんなで3Rやらんまいけ！」の開設に伴い、3Rの周知を行うキャラクターとして作成。カンガルーの3兄弟であり、それぞれリデュース、リユース、リサイクルの普及・啓発を担当している。循環型社会を力強く形成するキャラクターをイメージしており、ゆるキャラブームとは一線を画した力強いデザインとしている。



「みんなで3Rやらんまいけ！」

http://www.pref.toyama.jp/sections/1705/3R_portal/

※「やらんまいけ」は富山の方言であり、「(みんなで) やりましょう」の意味。

岐阜県

○エコ丸君

「エコ丸君」は「岐阜県リサイクル認定製品」の利用推進シンボルマーク。

平成9年、岐阜県リサイクル認定製品制度をスタート時に一般公募により選定。

矢印がリサイクルの推進をイメージしている。



三重県

○ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」と「ゼロ吉ファミリー」

(1) 三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」と「ゼロ吉ファミリー」

三重の豊かな森から生まれた森の妖精。人間が出すごみを食べるため、ごみが多いと太めな体型になるが、ごみの排出量を減らせばスリムになることができる。

【ゼロ吉紹介ページ】

<http://www.eco.pref.mie.lg.jp/gomizero/09/zero-profile.htm>

(2) 誕生のきっかけ

平成17年3月に、一般廃棄物の削減を目的として「ごみゼロ社会実現プラン」を策定（平成23年3月改定）。平成19年、ごみゼロ社会実現には県民一人ひとりの取組が重要なことから、ごみゼロ社会実現プランやごみ減量化の取組について関心を深めていただくために、ごみゼロキャラクターを公募により決定した。



【ゼロ吉】

【ゼロ吉ファミリー】

香川県

○クリーンくん、クリーンちゃん

(1) 誕生の経緯

ごみの減量化やリサイクルを推進するため、平成7年3月にシンボルマークを決定。その後、平成8年6月に当該シンボルマークの愛称を決定。（いずれも公募）

(2) コンセプト

ごみ袋を地球に見立てて擬人化。身体をハート形の両手で包み込むことにより、地球を愛し、資源を大切にす香川県民のやさしい心をシンボライズしている。

(3) 活用内容

ポスター、リーフレット等の各種印刷物などに利用。着ぐるみは民間団体等が実施する環境イベント等に貸し出しをしている。



クリーンくん

クリーンちゃん

愛媛県

○イメージアップキャラクター みきゃん

(性格) 明るくて好奇心旺盛。楽天的でくよくよしない。

(仕事) 愛媛県のPR。

(特徴) 昨年の11月11日に愛媛県のイメージアップキャラクターとして誕生した「みきゃん」に、マイバッグとマイボトルを持たせ、マイバッグには愛媛県の資源循環優良モデルシンボルマークを入れたデザインアレンジを作成。3Rの啓発等で使用。



福岡県

○九州統一マイバッグキャンペーンのシンボルマーク

(1) 特徴

九州統一マイバッグキャンペーンのシンボルマーク。

九州の地形をモチーフに、マイバッグ持参で軽快にショッピングに出かける様子を表現し、九州全域が一体となって、マイバッグ運動へ取り組む姿勢を表現している。

(2) 誕生のきっかけ

平成19年度から福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島県の7県の共同

事業として『九州統一マイバッグキャンペーン』を実施するにあたり、キャンペーンで使用するシンボルマークを公募・選定した。



長崎県

県民のゴミに対する意識を高め、ごみの減量化やリサイクルを推進してゴミのない資源循環型の長崎県「ゴミゼロながさき」を目指す「ゴミゼロながさき県民運動」の旗印として、平成15年度に県民に公募した。

【シンボルマークの説明】

長崎の「N」をベースに、リサイクルや県民の取り組みによって減量に成功し、ねじれるほどかすかになったゴミ袋がゴミゼロを目指して頑張ろうとアピールする様子を表現。



ゴミゼロながさき

熊本県

○ごみゼロシンボลมスコット ゼロッピー

(1) 作成理由

廃棄物の排出抑制やリユース・リサイクル、適正処理により環境への負荷の少ない「循環型社会（ごみゼロ型社会）」の構築を目指し、「熊本県ごみゼロ推進県民会議」を組織してその推進に努めている。県民の「循環型社会（ごみゼロ型社会）」への理解を深め、その構築を親しみやすいものとするため作成した。



(2) 命名理由

ごみゼロ+ハッピー

※何れも公募による募集・選考

大分県

○大分県応援団”鳥“めじろん

特別なキャラクターは作成していない。

「大分県応援団”鳥“めじろん」を様々な場面で利用している。



沖縄県

○マイバグちゃん、レジブクロウ博士

レジ袋削減の取組、啓発活動として、テレビスポットCM放送による啓発活動を平成22年度に実施した際に、キャラクターを作成した。平成23年度も同キャラクターを使ったテレビスポットCM放送及びポスターによる啓発活動を行った。



◇市

仙台市

○ワケルファミリー



ワケルくん



セツコさん



ワケミちゃん



トメさん

(1) 性格や特徴の設定

それぞれにごみ減量、リサイクルにこだわりを持った一家として設定。

メインキャラクターはワケルくん、妻がセツコさん、妹がワケミちゃん、祖母がトメさん、ペットがワケ猫ちゃんとワケタロウという構成となっている。



ワケ猫ちゃん



ワケタロウ

なお、現在、セツコさんがごみ減量、リサイクルの推進に関するブログを、また、ワケ猫ちゃんがごみ減量、リサイクルの推進に関する話題から、日頃の様々な話題までつぶやくツイッターを開設している。

(2) 誕生のきっかけ

平成13年度に本市の一般廃棄物処理基本計画を改訂し、愛称を「100万人のごみ減量大作戦」として、ごみ減量、リサイクルの推進に係る普及啓発を大規模に推進していくこととしたが、市民に対する訴求力を強めるため、プロポーザル方式により、総合的な啓発事業計画の募集を行なった。その結果、メインキャラクターとして、「ワケルくん」を使用した案が採用されたが、若い世代から大きな反響があったことから、話題性を高めるため、その後、それぞれにごみ減量、リサイクルにこだわりを持つサブキャラクターが作られた。

千葉市

○へらそうくん

ごみの分別・減量のPRを行うため、本市の焼却ごみ削減のイメージキャラクターとして、平成19年に市民公募により誕生。



横浜市

○「ヨコハマ3R夢！」マスコット イーオ

(1) 名前の由来

「ヨコハマ3R夢プラン」の目標である、ごみと資源の総排出量10%削減と、ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス50%削減、それぞれの数字「10」と「50」の共通の読み方からきています。「1=イ」・「5=(五つの)イ」と「0=オ」の2つの音を組み合わせるとイーオと名付けられました。

(2) 誕生日

3月6日 (3=スリー、6=ム)

(3) 趣味

3R行動 ex) マイボトルは常に持ち歩いている

(4) 好きな言葉

もったいない。スリム。



川崎市

○キレイクン

(1) キャラクターの作製について

昭和61年4月に、今まで、地域により独自に作製していた「ごみ集積所の表示板」を、都市景観を考慮した今日的デザインでシンボル・サイン化したごみ集積所掲示板を市内統一的に設置し、ごみの出し方、ごみ集積所の管理、清掃の保持等集積所に対する市民意識の高揚を図るために作製した。

(2) 名前について

ごみ集積所掲示板のシンボルイラストではあったが、作製した時点では名前は無く、ごみ集積所表示板が市民に親しまれ、活用されるものとするために愛称を募集した。

○対象…市内の小学生(4年生)



相模原市

○分別戦隊シゲンジャー銀河、レモンちゃん

(1) 作成の目的

循環型社会の形成に向け、子どもから大人まで、ごみの減量化・資源化に関心を持ってもらうよう、平成18年8月にごみの分別・資源化の普及キャラクターとして制定した。

(2) 分別戦隊シゲンジャー銀河 (上)

・パンピーレッド、ボトルブルー、ペットイエロー、ペーパーピンク、カンメタルオレンジ、アブラブラウン、プラホワイト

・「相模原ごみDE71大作戦」の減量作戦のイメージキャラクターとして平成22年3月に制定した。

(3) レモンちゃん (下)

位置付けはシゲンジャーのマスコットキャラクター



静岡市

○しずもちゃん

ごみ減量を啓発するキャラクターを制定し、市民が身近にごみ減量に取り組めるような親しみの持てる愛称を市民に募集。

しずもちゃん



浜松市

○クリエネちゃん

(1) 性格や特徴の設定

各家庭から出されてごみ进行处理する過程で、発電を行うことが分かるよう「ごみから発電」を画像とした。ごみ袋の中には、透かしでごみの画像も入れている。

愛称については運営会社が選考委員会を開催し、応募総数365点の中より『クリエネちゃん』に決定した。

- ・名付け理由：クリーンエネルギーの略
- ・名付け親：浜松市内小学校4年 男子

(2) 誕生のきっかけ

浜松市西部清掃工場は、ごみを安定的に焼却、熔融処理するとともに、ごみの熱から電気をつくる廃棄物発電所でもある。（「浜松市西部清掃工場」）。しかしながら、施設見学者などへの広報告知が十分にできていないことから看板を設置。さらに、より多くの市民に「浜松市西部清掃工場発電所」を親しんでいただけるようキャラクターを作成した。



クリエネちゃん

西部清掃工場発電所
イメージキャラクター

名古屋市

○シャチのジュンちゃん

＜コンセプト＞

「資源循環型社会」を目指す名古屋をイメージしたキャラクター。

名古屋のシンボルである金のしゃちほこが青い地球を抱いたイメージで作成。



シャチのジュンちゃん

大阪市

○「大阪市ごみ減量アクションプラン」キャラクター 「大阪リサ子」

平成22年度に啓発DVD「ごみ減量アクションプラン～市民の行動メニュー～」を作成した際に、DVD内のキャラクターとして誕生。

以降、作成する冊子等に活用している。



神戸市

○ワケトン

＜プロフィール＞ 神戸生まれで、実はとってもキレイ好きなミニブタの「ワケトン」。全国を旅して、久しぶりに神戸に帰ってみると、近所でごみのマナーが守られていないことに憤慨！仲間と協力して、町のみんなにごみの排出区分やルールを説明したり、ごみの日にキッチンとルールが守られているかをチェックしてまわる。

ルールを守らない宿敵「ワケヘン」に悩まされながらも、今日もこよなく愛する神戸のために、友達と一緒にごみ問題に取り組んでいる。

＜誕生時期＞ 平成16年

＜開発の経緯＞ 平成16年11月から実施する新しいごみ分別収集をPRするため。



○トコトン

＜プロフィール＞ しっかり者でキレイ好きな、ワケトンの妹。今までごみのことに関心はなかったけど、ワケトンたちの活躍ぶりを見て、「私も手伝う！」と飛び出してきた。

「マナー違反は許せない！」と正義感あふれるところは、兄ワケトンにそっくり。チャームポイントは、ピンクのリボンとつぶらな瞳。この目でウインクされると、ワケヘンもメロメロになっちゃう！現在、町のみんなど、ごみと資源の分け方・出し方についてトコトン覚えようと勉強中。

＜誕生時期＞ 平成20年

＜開発の経緯＞ 平成20年11月から実施する新しいごみ分別収集をPRするため。

○ワケニャン

＜プロフィール＞ 世間に媚を売らず、群れない主義のネコ。クリーンステーションに住んでいる。「ワケトン」のアドバイザーで、家庭から出るごみと資源の出し方に詳しい。ペットボトルのリサイクル製品のTシャツが大のお気に入り。きれい好き。几帳面で、礼儀にうるさい。パートナーの「ワケピー」と同居中。

＜誕生時期＞ 平成16年

＜開発の経緯＞ 平成16年11月から実施する新しいごみ分別収集をPRするため。

○ワケピー

＜プロフィール＞ ヒナのとときに巣から落ちてクリーンステーション付近で泣いていたところ、「ワケニャン」に助けられた青ガラスのヒナは、「ワケピー」と名付けられた。その後「ワケニャン」からごみ問題に関する英才教育を受けてパートナーとして成長した。毎日、上空からクリーンステーションのごみ分別状況をパトロールして、ルール違反がないかチェックしている。

＜誕生時期＞ 平成16年

＜開発の経緯＞ 平成16年11月から実施する新しいごみ分別収集をPRするため。

○ワケヘン

＜プロフィール＞ 黒のコスチュームと覆面に隠された素顔はミステリアス、と本人だけが思っているが、元々は六甲山に住んでいたイノシシであることがバレバレ。お腹をすかせて神戸の街に降りて来て、分別されていないゴチャマゼごみを食べ過ぎ、モンスターに変身。区分されたごみを散らかして、「ワケトン」たちのじゃまばかりしています。チャームポイントはたてがみ（のつもり）とするどいキバ（のつもり）。ペットの「ヤラヘン」といっしょに、「面倒くさいビーム」を発射して、みんなのやる気を無くさせる。

＜誕生時期＞ 平成16年

＜開発の経緯＞ 平成16年11月から実施する新しいごみ分別収集をPRするため。

○ヤラヘン

＜プロフィール＞ 分別されていないゴチャマゼごみに、「ワケヘン」が面倒くさいビームを発射して、創り上げたペットモンスターの「ヤラヘン」。キタナイことやクサイ臭いが大好きで、面倒くさがりや！分別無しに、どんなごみでもガブガブ食べ放題の日々を送っている。中身の見えない黒いポリ袋を身にまとい、面倒くさいウイルスを撒き散らしている。

＜誕生時期＞ 平成16年

＜開発の経緯＞ 平成16年11月から実施する新しいごみ分別収集をPRするため。

広島市

○あらら

広島市環境局マスコットキャラクター：アライグマの「あらら」

平成2年、「きれいなひろしま・まちづくり推進事業」のマスコットとして、愛嬌のある姿と、きれい好きなイメージがあることから選ばれた。

選ばれた当時は名前がなかったが、平成5年に全国から愛称を募集し、「あらら」と命名された。

ごみ減量やリサイクル、きれいなまちづくりのため、イベント（着ぐるみ）、ポスター、広報紙などに活用している。



環境局マスコット
キャラクター「あらら」

福岡市

○モッテコちゃん

マイバッグキャンペーンのキャラクターで、マイバッグの利用促進を目的としている。

キャラクターは平成19年に制定し、名称は平成20年10月に一般公募で決定。



○かーるちゃん

ごみ減量シンボルマークで、ごみ減量運動の推進を目的としている。

ごみ容器が空を飛べるくらいになるほど、ごみ減量運動が成功する事を願ったシンボル。

シンボルはH元に公募で制定、名称はH2に一般公募で決定。



北九州市

○ていたん

(1) 性格や特徴の設定

地球温暖化の象徴である「しろくま」。

氷が溶けはじめ、住むところがなくなっている北極から、ふるさとと家族を守るため、「環境モデル都市」の北九州市へやってきたという設定。

大好きな花は、北九州市の花の「ひまわり」。バンダナにあしらい、トレードマークとしている。

愛称は低炭素社会をイメージして「ていたん」。鼻と口で「エコ」を表している。

(2) 誕生のきっかけ

本市が「環境モデル都市」であることについて、市民の認知度の向上を図り、市民の環境意識をさらに高めるため、環境広報・イメージ戦略の一環として、親しみやすく愛着の持てるマスコットキャラクターを制作した。



○未来ホタル

(1) 性格や特徴の設定

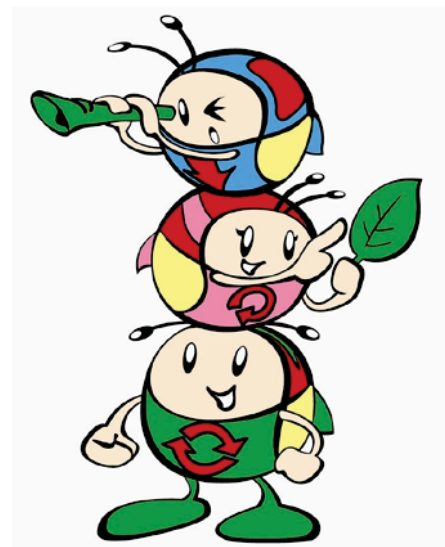
きれいな川にすむという「ホタル」(循環型社会実現のための象徴)をモチーフにしたキャラクターで、3体で一組のものである。3R「リデュース」「リユース」「リサイクル」を表している。

キャラクターにはそれぞれ「環境を見守る」「対策を講じる」「行動する」という役割があり、本市の取り組みを表している。

(2) 誕生のきっかけ

平成13年に開催された北九州博覧祭のエコパークゾーンにおいて、来場者と会場とをつなぐキャラクターとして考案された。博覧祭終了後も、北九州市環境ミュージアムのキャラクターとして活躍している。

名前についてはグループ名が「未来ホタル」、それぞれの名前が「デューくん」「ユーちゃん」「サイくん」である。市民公募の中から選ばれた名前である。



川口市

〇ごみまる

(1) 名称：川口市ごみ減量キャンペーンキャラクター
「ごみまる」

(2) 作成理由

キャラクターの作成検討を開始した平成2年は、ごみ量 が大幅に伸びていた時期で、ごみの減量を市民・事業者に啓発することが必要だった。そこで、市民の関心を高めるには、まず子供の心をつかむことが必要と考え、市民に（特に子供に）訴求するキャラクターを作り、それを中心に啓発活動を行おうと考えた。

(3) コンセプト

- ①ごみは永遠に増え続けてしまうことを当然と思うのではなく、極力減らしていこうということをイメージしたもの。
- ②既存の動植物等に類似していないもの。
- ③ごみの量に応じて、容姿が変化すること。

(4) 命名理由等

市で提示した3点のコンセプトを基に、事業者によるコンペ方式でデザインを決定。キャラクター名は市民から公募し、環境部内の検討委員会で選定。応募件数253件、応募名称は177種類であった。

ごみ減量のキャンペーンキャラクターであることと、ごみをゼロにしていくことを願い、平成3年6月7日に「ごみまる」に決定。



船橋市

〇リサちゃん

(1) リサちゃんマークは、平成14年に市立船橋高等学校の生徒によりデザインされました。

(2) デザインコンセプト

自然を大切にし、資源が繰り返し使われることを願う気持ちから、葉っぱの帽子と洋服、木の靴、花の飾りを身につけた「みどりの妖精」をイメージしています。



佐賀市

○7種類：リサちゃん、エコッコくん、水切りエコ侍、エコたろう、 がばいエコばあちゃん、トンボくん、まほろちゃん

＜作成理由、コンセプト、命名理由＞

- ・リサちゃん:平成 8 年度頃に作成。当時の市報にキャラクターなどを載せることはなかったため、係で案を出し合い、最終的には市報印刷会社から持ち込まれたデザインに決定。命名理由は、ごみの有料化が導入され、容器包装リサイクルが始まる直前だったこともあり、リサイクルに重点を置いていたため。
- ・エコたろう、エコッコくん、水切りエコ侍：平成 10 年度頃に子どもへの啓発にデジタル絵本を作成することになり、その際に作成。詳細は不明だが、環境について詳しいキャラクター作りを目指したようだ。
- ・がばいエコばあちゃん：平成 18 年度頃に追加で作成
- ・トンボくん：詳細不明
- ・まほろちゃん：佐賀市の広報担当職員が、市報等での広報用キャラクターとして作成。多数のデザインの中に、エコバッグを持ったものも描かれた。

○リサちゃん

- ・好奇心いっぱいの女の子
- ・星のステッキで魔法が使える
- ・困った時には胸の「キューちゃん」が助けてくれる
- ・ごみを減らすことにはまっている



○エコッコくん

- ・「惑星エコ」からやってきた宇宙人
- ・「ピー」が口ぐせ



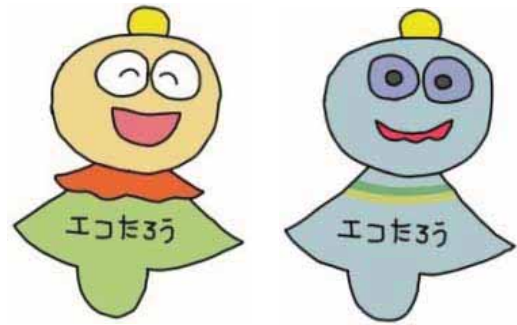
○水切りエコ侍

- ・生ごみの水を切って渡り歩くさすらいの侍
- ・「エコ」が口ぐせ
- ・時代劇と昼ドラにはまっている



○エコたろう

- ・何でもポイポイ捨てて、みんなに怒られる
- ・「おいら」が口ぐせ
- ・基本的に素直ないいやつ



○がばいエコばあちゃん

- ・「エコたろう」のおばあちゃん
- ・昔の知恵をみんなに教えてくれる
- ・「もったいない」が口癖
- ・風呂敷で包むことが得意
- ・怒ると胸の「が」が点灯する
- ・「ケチは最低！節約は天才！」が信条
- ・「エコたろう」が「ポイ捨てエコたろう」に変身しないか心配している



○トンボくん

- ・「トンボ王国・さが」のシンボル
- ・佐賀の街のあちこちに出没している
- ・水と大空を愛するさわやか君



○まほろちゃん



◇民間団体

アルミ缶リサイクル協会



建設副産物リサイクル広報推進会議

○リサイクルくん

建設リサイクルの啓発を目的として販売・作成したポスター（平成19・20年度）に起用。

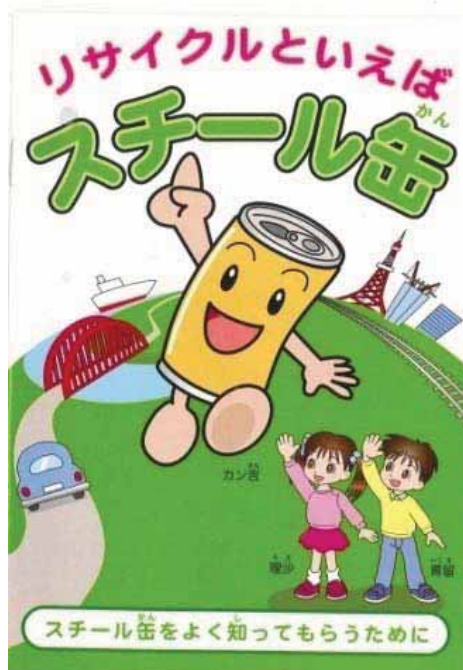
建設現場で働く人をイメージして作成。



スチール缶リサイクル協会

○カン吉・理沙（りさ）・育留（いくる）

ポスター・冊子等でのキャラクター（著作権あり）
～ポイ捨て防止・環境美化・リサイクル推進を分かり易く推進する為



第3章 啓発グッズ

◇都道府県

岩手県
茨城県
千葉県
新潟県
静岡県
和歌山県
愛媛県
福岡県
宮崎県

福島県
埼玉県
神奈川県
山梨県
三重県
山口県
高知県
長崎県
沖縄県

◇市

仙台市
横浜市
相模原市
浜松市
大阪市
広島市
福岡市
船橋市

千葉市
川崎市
静岡市
名古屋市
岡山市
北九州市
川口市
佐賀市

◇民間団体

アルミ缶リサイクル協会
(NPO)環境文明 21
建設副産物リサイクル広報推進会議
スチール缶リサイクル協会
(一社)パソコン3R推進協会

◇都道府県

岩手県

平成 23 年度 東日本大震災津波による対応のため執行なし。
これまで環境王国展などのイベントの際に、必要に応じて調達。

福島県

過去に作成した啓発グッズ等把握は困難。
当分の間、啓発グッズは作成しない予定。

茨城県

ポケットティッシュ 1.4 万個 : 10 万円

埼玉県

広報用グッズ用年間予算 450,000 円

〔 「みんなでマイボトル運動」 啓発用 200,000 円 〕
〔 「エコぐるめ」 啓発用 250,000 円 〕

- マイバッグ、マイボトル啓発用反射シール
- マイボトル啓発用反射リストバンド 1,400 枚 : 41,160 円
- マイボトル協力店舗用ミニのぼり旗 100 枚 : 45,150 円
- マイボトル協力店舗用ポスター
- マイボトル協力店舗用ステッカー
- マイボトル啓発用携帯電話ストラップ
- エコぐるめ店舗用ステッカー

千葉県

普及啓発物品作成費（23 年度当初予算ベース） : 1,740 千円（ポスター等含む）

<主な作成グッズ>

- 3R チラシ 40,000 枚 : 400,000 円
- リーフレット 各 10,000 枚 : 360 千円
- シール 10,000 枚 : 120 千円
- シール型携帯クリーナー 5,000 個 : 500 千円
- 食材保存用バッグ 3,000 個 : 150 千円

神奈川県

○レジ袋削減と廃テレビの適正なリサイクルを呼びかける 3 R 啓発グッズ等の作成
(22 年度作成)

・マイバッグ・ポケットティッシュ・タンブラー

(23 年度作成)

・レジ袋削減不要カード・レジ袋削減目標達成特定店舗ステッカー
・PR入りウェットティッシュ・PR入りポケットティッシュ
・PR入り風船(8色)・オリジナル付箋(5色)

新潟県

平成 23 年度はエコバッグ 3,000 個作成(120 万円)

山梨県

・関東甲信越静環境美化推進連絡協議会で「ごみの散乱防止と 3 R を進めるためのポスター・標語コンテストを実施しており、優秀作品を使用したポスター、リーフレット、持ち帰り袋花の種を啓発物品として作成。版は協議会で負担、購入は各県で行っている。
予算は各県で対応。

H23 山梨県予算

ポスター	：	74 枚	2,253 円
リーフレット	：	4,003 枚	25,218 円
持ち帰り袋	：	3,350 枚	17,902 円
花の種	：	5,900 枚	101,598 円

静岡県

花の種

三重県

広報グッズ用年間予算 約 80 万円

・クリアファイル (A4) 年 5,000 枚/368 千円
・シール (10cm×16cm) 年 10,000 枚/116 千円
・消しゴム 年 3,000 個/441 千円
・えんぴつ (H23 年度のみ) 7,200 本/303 千円

和歌山県

広報グッズ (H23 年度)

①ポケットティッシュ 85,000 個 (374,850 円)
②のぼり 370 枚 (124,320 円) 計 499,170 円

山口県

- レジ袋削減関係（取組主体：山口県容器包装廃棄物削減推進協議会）
 - ・ポスター、幟、リーフレット、エコバック等
- 食品ロス削減関係（取組主体：山口県食品ロス削減推進協議会）
 - ・ポスター、卓上広告塔、ステッカー
- 海岸漂着物対策関係（取組主体：山口県海岸漂着物対策推進協議会）
 - ・ポスター、幟、横断幕

愛媛県

- クリアファイル 2,000 枚：148,000 円
愛媛県のイメージアップキャラクターを中心に置き、伊予弁の「もったいないけん」という言葉と「リデュース・リユース・リサイクル」の言葉を入れた。
- マイタンブラー 300 個：69,300 円
- 風船 1,200 個：136,500 円（600×2 種類）

高知県

レジ袋削減キャンペーンチラシポスター印刷（1,656 千円）

福岡県

- 広報グッズ用年間予算（7 県合計予算） 628,700 円
- ①啓発ポスター A3 サイズ 18,939 枚：169,031 円
 - ②啓発ステッカー プラスティック製 9,768 枚：437,949 円

長崎県

環境月間イベント啓発資材 200 千円（H24）

宮崎県

県の予算では作成していないが、県が事務局をしている宮崎県 4R 推進協議会で
マイバッグ 3,000 個 予算 35 万円
啓発パネル 5 枚 予算 30 万円（ただし 23 年度のみ）
を作成している。

沖縄県

マイバッグ 500 個 プロマーク 1000 個（30 万）

◇市

仙台市

現在まで、約 10 年にわたり、様々なグッズが作成されている。

主なものは、以下のとおりである。

マイバッグ、マイ箸、マイカップ、トランプ、ブックカバー、シール、風船、
缶バッジ、メモ帳、雑がみ袋、携帯ストラップ、お面、コンピュータゲームソフト、
その他

千葉市

啓発グッズに係る 24 年度の主な予算（金額は概数）

ビニールショルダーバッグ	200 万円
水切りネット	60 万円
雑がみ保管袋（一般向け・小学生向け紙袋）	50 万円
マイバッグ（予定）	10 万円

横浜市

パペット、ミニタオル、付箋、マイバック、ボールペン、シャープペン

川崎市

①生ペット製水切りネット	6,000 個	22 万円
②ブックメモ	1,500 個	15 万円
③LEDストラップ	3,250 個	39 万円

相模原市

グッズの種類 ティッシュペーパー 15,000 個 : 10 万円

静岡市

○キャンペーン負担金：97 万円（H23：ポスター・120 枚、マイ箸・1,000 個）

大都市減量化・資源化共同キャンペーン事業による、各政令指定都市等と共同でポスター及び啓発物品を作成。各種イベント等で配布している。（※使用キャラクターは「しずもちゃん」ではありません。）

○その他啓発グッズ予算：100 千円

水切りネット 1,000 個

浜松市

(1)シール	10,000 枚	20 万円	(2)クリアファイル	10,000 枚	50 万円
(3)雑がみ分別袋	1,100 枚	11 万円	(4)水切りダイエット	1,500 個	30 万円

名古屋市

レジ袋有料化全市拡大（※）に向けた啓発グッズ

○啓発グッズ作成（デザイン・制作費含む）委託費用：780 万円

- ①ポスター（A2／店頭掲示用）6,000 枚
- ②のぼり（1,500×450 mm）2,000 枚
- ③レジかごチラシ（A4／店舗カゴ設置）65,000 枚
- ④ミニポスター（A5／サッカー台等設置）3,000 枚
- ⑤ミニのぼり（100×300 mm）4,000 枚
- ⑥ポップ（90×55 mm／レジ設置）2,000 枚
- ⑦チラシ（A4／店頭配布用・キャンペーン広報）280,000 枚

○イベント配布用マイバッグ 1,300 個 作成委託費用：76 万円

○貸出用着ぐるみ 1 個 作成委託費用：63 万円（市の啓発イベントなどにも利用）

※ 平成 19 年 10 月に緑区でレジ袋有料化モデル事業を実施後、実施区を順次拡大し、平成 21 年 4 月に全市拡大

大阪市

広報グッズ用年間予算（平成 23 年度予算）

- ①ふろしき 4,000 枚：100 万円
- ②再生メモ帳 10,000 冊：47 万円
- ③ティッシュペーパー 20,000 袋：18 万円
- ④啓発用ステッカー 200 枚：17 万円
- ⑤トイレットペーパー 43,400 巻：201 万円

岡山市

エコバッグ 80 万円

水きりネット 5 万円

広島市

平成 23 年度広報グッズ用予算 1,128 千円

○都市減量化・資源化共同キャンペーン 1,000 個：970 千円

（ポスター、その他諸経費を含む）

○市販エコグッズ購入 1,000 個程度：158 千円

北九州市

○「ていたん」

広報グッズ用年間予算 280 万円

①着ぐるみ 80 万円

②啓発グッズ 200 万円

○「未来ホテル」

過去に作成したが、近年は作成していない。

福岡市

マイバッグキャンペーン費用一式として予算を計上

※年度により、予算、グッズは変更

<平成 23 年度グッズ>

のぼり、ポスター、キャンペーン応募用紙、ポケットティッシュ、

マイバッグキャンペーン用キャンペーンソングCD

川口市

①平成 23 年度 啓発用（グッズ・消耗品等）予算 598,500 円

23 年度作成・・・ごみまるメモ帳 1,000 冊：118,650 円（税込）

②平成 22 年度作成分

・ごみまるハンカチ 1,500 枚：154,350 円（税込）

・イベント等で配布するポケットティッシュ 15,000 個：82,687 円（税込）

③平成 21 年度作成分・・・クリアフォルダー 1,000 枚：199,500 円（税込）

④戸塚環境センターまつり開催事業

平成 23 年度予算 箸 1,000 本：315,000 円

※まつり中止のため執行せず

まつり啓発品としてであり、3R 啓発とは作成趣旨が異なる。

⑤全市一斉クリーンタウン作戦

平成 23 年度 ごみ袋 35,500 枚：336,540 円（税込）、ポスター：46,200 円（税込）

⑥全国不法投棄監視ウィーク

平成 23 年度 ティッシュ 20,000 個：102,000 円（税込）

ポスター：49,980 円（税込）

船橋市

六市清掃協議会共同事業啓発品として、エコバッグ作成
「3R」のロゴを入れている。

30万円で1142個作成

(本協議会の会員市は千葉市、市川市、松戸市、習志野市、柏市、船橋市)

佐賀市

広報グッズ用年間予算 5万円

①マイバッグ 200枚 : 5万円

②のぼり旗 随時

◇民間団体

アルミ缶リサイクル協会

紙挟み用マグネット 5000 個
回収用ポリ袋 20000 袋 予算計 1,300 千円

NPO法人環境文明21

発生抑制について考えるブックレット
○食卓から考える環境倫理（2001年）
○飲料自販機から見える環境問題（1999年）
他

建設副産物リサイクル広報推進会議

グリーン購入法のボールペン 500本：約5万円（技術展示会で配布）

スチール缶リサイクル協会

マグネットつきボールペン
マグネットつきクリップ
花缶
マイバッグ
クリーンファイル
カラーマーカー
缶バッジ

環境意識向上に関心を持たせ、推進するため毎年、予算を計上しその範囲で作成。
製作個数は、1万～数万個程度。

一般社団法人パソコン3R推進協会

全体：160万円
トートバック：130万円
その他：30万円

第4章 イベント等

◇都道府県

青森県
秋田県
茨城県
群馬県
千葉県
新潟県
福井県
岐阜県
三重県
和歌山県
愛媛県
大分県
長崎県
沖縄県

岩手県
福島県
栃木県
埼玉県
神奈川県
富山県
山梨県
静岡県
京都府
山口県
高知県
福岡県
宮崎県

◇市

仙台市
横浜市
相模原市
浜松市
大阪市
広島市
福岡市
東海市

千葉市
川崎市
静岡市
名古屋市
岡山市
北九州市
川口市
佐賀市

◇民間団体

アルミ缶リサイクル協会
(NPO)環境文明21
スチール缶リサイクル協会

(社)環境生活文化機構
建設副産物リサイクル広報推進会議
(一社)パソコン3R推進協会

◇都道府県

青森県

平成 22 年度は、11 月に、弘前市において、環境省が主催する「3 R 推進弘前大会」との共催により、県民や事業者を対象に、3 R の取組の輪を広げて行くことを目的としたフォーラムを開催した。

平成 23 年度は、これまでの 3 R の取組に地球温暖化対策の取組を拡充し、新たな県民運動のキックオフ宣言の場として、さらに電気需要の高まる夏期の節電対策呼びかけの場として 7 月にフォーラムを開催した。また、11 月にも、県民運動の共感と取組の輪を広げていくため十和田市において、県民や事業者を対象に、フォーラムを開催した。

岩手県

平成 23 年度 東日本大震災津波による対応のため執行なし。

平成 24 年度以降も、いわゆる普及啓発関係のイベントは予定していない。

秋田県

○生活環境部温暖化対策課

I レジ袋削減・マイバッグ推進運動

<目的>

平成 19 年 4 月 1 日（火）ら改正容器包装リサイクル法が施行され、容器包装を年間 50 t 以上用いる多量利用事業者に対する取組状況等の報告義務や、取組が不十分な場合の勧告・公表・命令を行う措置が導入されるなど、容器包装廃棄物の排出抑制への取組が一層強化されることとなった。本県でも、事業者と協働してレジ袋の削減を推進し、廃棄物の減量化を通じた循環型社会の形成と地球温暖化防止対策を推進する。

<内容>

- (1) 県と事業者は、レジ袋削減に向けた自主協定を締結し、協働して取組を推進する。
- (2) レジ袋削減の目標は、マイバッグの持参率により表示する場合によっては 20% 以上とし、事業者が選択する。その他の方法により表示する場合にあっては、これらと同等と認められる内容とする。
- (3) 事業者は、レジ袋削減の目標を達成するため、店舗ごとに様々な取組を推進する。
- (4) 県は、レジ袋削減の取組を実施するに当たり、秋田県ホームページ“美の国あきたネット”に紹介するなど積極的に広報を行う。
- (5) 県は、マイバッグ持参率 20% 以上、コンビニエンス事業者にあたってはレジ袋使用総重量削減率（平成 12 年比）20% 以上を達成した店舗に対して、事業者が希望する場合、レジ袋削減目標達成ステッカーを付与する。なお、ステッカーの有効期間は交付後の半期（6 ヶ月）のみとする。
- (6) 県は、秋田県ホームページ“美の国あきたネット”等により達成店舗名及び達成状況を公表する。

<効果等>

平成23年度協定参加事業者数：19事業者381店舗

II あきたエコ&リサイクルフェスティバル

<目的>

世界的に地球温暖化防止に対する意識が高まる中、県民一人ひとりが省エネルギーに取り組むとともに、資源を効果的に循環させながら、新エネルギーを積極的に取り入れたライフスタイルへ転換するための情報発信を行うなど、楽しみながら環境について学習できる場を提供することを目的とする。

<内容>

- ・あきたエコ&リサイクルフェスティバル実行委員会（温暖化対策課が事務局）が主催
- ・秋田駅前アゴラ広場、買物広場大屋根下「ビッグルーフ」で開催
- ・企業・団体による省エネ・新エネ、3R、自然環境に関するブース出展
- ・省エネ・新エネ、3R、自然環境に関するステージイベント

<効果>

平成23年度来場者数：23,000人

○生活環境部環境整備課

I あきた・クリーン強調月間

毎年4月を「秋田・クリーン強調月間」、4月第2日曜日を「あきた・ビューティフル・サンデー」と定め、雪解け後の身近な環境の美化のため、クリーンアップ活動への参加を呼びかけている。平成23年度は、月間中約105千人がクリーンアップ活動に参加した。

II あきたクリーンパートナー登録制度

県内で環境美化活動に取り組んでいる団体を支援するため、「あきたクリーンパートナー」登録制度を設け、5人以上の活動団体等（住民団体、町内会、学校、企業等）に対し、清掃活動に必要な物品等を提供するとともに、各団体の活動を県のホームページで紹介している。さらに、各団体の活動計画について他団体へ情報提供を行う。なお、平生24年2月末現在の登録団体数は87団体。

福島県

過去に実施したイベントの把握は困難。

当分の間、イベント等は実施しない予定。

茨城県

○不法投棄防止県民フォーラム

平成24年2月15日開催

県民に3Rや不法投棄防止活動についての理解及びこれらの取組を促進するため、フォーラムを開催した。

栃木県

○エコ・もりフェア

環境にやさしい暮らしや森林の役割、大切さに関する普及啓発を目的に、環境・森林関係団体や企業等による、参加・体験型を中心とした環境・森林に関連する出展やステージイベントを実施している。

今年度は平成 23 年 10 月 8,9 日に開催し、17,000 人の来場者があった

群馬県

ぐんま循環型社会づくりフォーラム：広く一般県民を対象に循環型社会づくりに向けた意識啓発と機運醸成を図るため、市民団体、事業者等に協力を仰ぎ、10 月 2 日に開催。循環型社会づくりをテーマとする講演会及び市民団体による 3 R の取組に関する展示等を行った。

埼玉県

○平成 23 年度イベント出展状況

- ・「みどりと川の再生埼玉フォーラム」出展（3 R についてパネル展示等）
（平成 23 年 6 月 12 日、埼玉新都心けやき広場）
- ・「サイクリングフェスティバル 開催イベント」出展（3 R についてパネル展示等）
（平成 23 年 10 月 16 日、上尾運動公園）
- ・「日本スリーデーマーチ」出展（マイボトル啓発グッズの配布）
（平成 23 年 11 月 4 日、埼玉県嵐山史跡の博物館）
- ・「埼玉 B 級ご当地グルメ王決定戦」出展（エコぐるめについてパネル展示及びクイズ等）
（平成 23 年 11 月 28 日、北本市総合運動公園）

○「みんなでマイボトル運動」について

埼玉県では、循環型社会の構築に向けて、誰もが身近にできる取組として、繰り返し使えるマイボトルの利用を促進し、ペットボトルなどの使い捨て容器ごみの削減やごみを出さないライフスタイルの定着を進めている。

各種イベントで啓発を行うとともに、マイボトル用に飲み物を提供するマイボトル運動協力店舗（平成 23 年 12 月 23 日現在、393 店舗）の拡大に取り組んでいる。

千葉県

市町村と連携し、各市町村や県のイベントの際に、環境にやさしい実践的な 3 R の取組「ちばエコスタイル」として、「ちばレジエコ」と「ちば食べエコ」の普及啓発を全県的に実施している。

また、県民向けに 3 R の普及促進を図るシンポジウムや、リサイクル工場等を見学する循環型社会体験バスツアー等を開催している。

神奈川県

3 Rを推進するため、レジ袋削減や廃テレビの適正なリサイクルの呼びかけ、リサイクル認定製品等の普及啓発を行った。

○県主催イベント「かながわ3 R祭」【平成23年3月5日】

(場所：みなとみらい クイーンズスクエア横浜 1F クイーンズサークル)

○地球環境イベント「アジェンダの日2011」【平成23年6月4日、5日】

(場所：日本大通)

○各種市町村環境イベント

○PRキャラバン隊の結成【延べ360日間、約720箇所を実施】

(のぼり、ポスター、啓発グッズ等を使用した普及啓発活動を店頭、駅前等で実施)

新潟県

○3 R推進フォーラム

3 Rの推進を図るため、県民、団体、事業者を対象としたフォーラムを開催。23年度は食品残渣の3 Rをテーマに、基調講演や事例発表、事業者のPRブース展示、エコクッキングなどを実施。県ブースでは、レジ袋削減県民運動など3 R推進に係る事業を紹介。

○レジ袋削減県民運動の普及啓発(委託)

受託者が関与するイベントなどで、エコバッグを活用しながら県民運動をPRし、啓発活動を実施。

富山県

○とやまかえっこバザール in とやま環境フェア2011(開催時期：10月)

【目的】

イベント参加者(主として子供)の3 R(特に2 R)活動への理解を深めるとともに、活動をその場で実践してもらうこと。

【概要】

遊ばなくなったおもちゃを子供同士が持ち込んで交換する買い物遊びを実施。おもちゃを持ち込んでいない子供は、当日のイベント運営の一部を担う「こどもスタッフ」になることにより、買い物遊びに参加できる。

また、大人向けに展示コーナーも併設。

(詳細は、http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1705/kj00011072.html 参照)

○エコ・クッキング料理教室(開催予定時期：1月)

【目的】

家庭から出るごみのなかで大きな割合を占めるのが、調理くずや食べ残し等の生ごみであり、これらの発生抑制に有効な「エコ・クッキング」の普及・啓発を図ること。

【概要】

環境のことを考えて「買い物」、「料理」、「片づけ」を行う「エコ・クッキング」を、親子で実際に料理を作りながら実践してもらう。

詳細は、下記を参照。

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1705/kj00011288-002-01.html

※「エコ・クッキング」は東京ガス株式会社の登録商標

福井県

「ものを大切に作る社会づくりプロジェクト」

県民一人ひとりが「ものを大切に作る」意識をもち、大切な資源を有効に活用するライフスタイルに結びつくよう「修理する文化」の醸成や「リサイクル文化」の定着を目指して、良いものを大切に使う社会づくりを、下記のイベント等を通して推進している。

○古本市

不要になった本を、県庁等に設置しているリサイクルボックスに投函していただき、欲しい人に譲る場として「古本市」を開催している。

○修理工房

修理してものを大切に使うことの良さを紹介するため、日用品の修理実演を行う「修理工房」を開催している。

○おもちゃの病院

子どもたちに、おもちゃの修理を通して、ものを大切に作る気持ちを伝えるため「おもちゃの病院」を開催している。

○おもちゃの修理ボランティア養成講座

身近な地域でおもちゃ等の修理を行うグループを育成するため、平成 23 年度から「おもちゃの修理ボランティア養成講座」を開催

山梨県

○ごみ減量・リサイクル推進キャンペーン

6 月 5 日の「やまなし環境の日」に近い一週間に、県内各地の駅前、スーパーマーケット等でリーフレット、花の種などの啓発物品を配布し、ごみの減量とリサイクルの推進を呼びかける。

岐阜県

○東海三県一市グリーン購入キャンペーン

東海三県のスーパー、ドラッグストア等 700 店舗以上に、ポスターの掲示や懸賞応募はがきを設置することにより、グリーン購入を啓発する東海三県一市での広域的な取り組み。

○グリーン購入啓発展

クイズ形式の模擬買い物を実施し、答え合わせをしながら、環境への負荷が少ない買い物の知識を身につけてもらう。

○家庭ごみ減量化推進県民大会

- ・「リサイクル・リユースによる家庭ごみ減量活動」をテーマにした基調講演
- ・県内でごみ減量・3R推進活動に取り組んでいる市民団体・グループ等によるブース展示
- ・ブース出展団体・グループのPR、参加者との交流会
- ・活動事例発表：県内でごみ減量活動・3R推進活動に取り組んでいる団体による事例発表
- ・講師、事例発表団体によるごみ減量・3R推進活動についてのパネルディスカッション

静岡県

○環境にやさしい買い物キャンペーン

平成 23 年度は県内 2363 店舗が参加

○資源リサイクルフォーラム

県民のごみ減量やリサイクルに関する意識の高揚及び各地域のリサイクル活動の活性化を図るため、3R 推進についての講演や先進取組事例等の紹介を行う。例年 400 人程度が参加

○ごみゼロアイデアコンテスト

家庭や学校、オフィスなどにおける身近な 3R の推進に関するアイデアを広く募集し、優秀作品を表彰するとともにその内容を広く周知することにより、3R に対する意識を高め一般廃棄物の排出量削減を目指す。今年度の応募数は 326 作品

○マイボトルキャンペーン

繰り返し使える容器の普及を目的に、県内のマイボトルが使える店舗をマップにして配布。

○ふじのくにエコショップ宣言制度

廃棄物削減を目的に、環境配慮の取組をしている店舗を登録しウェブサイトで公開し県民に周知。12 月末で 531 店舗が登録。

三重県

平成 17 年度から 21 年度までは、年 2 回（県民向けと事業者向けに各 1 回）ごみゼロ推進セミナーを実施。また、平成 19 年度と 22 年度には、キャラクターの発表や「ごみゼロ社会実現プラン」の改定などの節目に合わせたごみゼロフォーラムを開催。

平成 23 年度に、子ども向け（小学生を対象）に食品廃棄物の削減をめざしたテキストを作成し、24 年度から「もったいない名人（ボランティア）」によりテキストを活用した環境教育の試行を開始するにあたり、「もったいない」をコンセプトとしたイベントを開催予定。

京都府

○3R・循環府民シンポジウム in 京都（平成 23 年 8 月 25 日）の開催

○京都府開催の環境フェスティバル（平成 23 年 12 月 10 日～11 日）における 3R、産業廃棄物、不法投棄対策等廃棄物関連のパネル展示及びレジ袋に関する意識調査の実施

和歌山県

- レジ袋削減キャンペーン（平成 23 年 6 月）
6 月の環境月間に、ポケットティッシュ、マイバッグを配布する啓発を実施した。
- エコプロダクツ 2,011 への出展（平成 23 年 12 月）
和歌山県ブースを出展し、リサイクル製品やパネルの展示、パンフレットの配布を行った。
- 3R・資源循環セミナー in 和歌山の開催（平成 24 年 2 月）
基調講演や先進事例の発表を通じて、3R の取組を知ってもらうセミナーを開催。
- 認定リサイクル製品展示会の開催（平成 24 年 2 月）
公共工事等におけるリサイクル製品利用促進のため、県内 8 カ所で展示会を開催。

山口県

- やまぐちいきいきエコフェア（主催：やまぐちいきいきエコフェア実行委員会）
毎年秋に開催される子どもから大人まで、楽しみながら環境への理解を深めることができる参加・体験型の環境イベント（3R ブース来場者：H23 年度 47 千人）
・レジ袋削減、食品ロス削減、海岸漂着物対策について、展示やクイズラリー等
- 山口国体・山口大会でのPR
平成 23 年 10 月に開催された山口国体・山口大会において、メイン会場内の行政ブースに出展（3R ブース来場者：87 千人）
・レジ袋削減、食品ロス削減、海岸漂着物対策について、展示や塗り絵コーナー等
- 日韓海峡海岸漂着ごみ一斉清掃
5 月 31 日~7 月 18 日の間実施した日韓海峡を挟んだ日韓関係 8 県市道による海岸漂着物の一斉清掃や発生抑制に向けた普及啓発（参加者：H23 年度県内 68 箇所、計 26 千人）

愛媛県

- 「いっしょに eco 体験フェア」
民間企業（家庭用品販売会社、スーパー）等と共同で平成 24 年 1 月に開催した。
このイベントは、エコを軸としたイベントを実施し、行政や企業の環境保全活動に関心を持っていただき、地域活性化を推進していくことを目的としている。
3R にまつわるクイズラリーを行ったほか、愛媛県が認定する資源循環優良モデル認定リサイクル製品を展示した。
- 愛媛の 3R 企業展
資源循環優良モデル認定のリサイクル製品及び 3R に取り組む企業、店舗等の展示会で、リサイクル製品等の販路拡大、企業間相互の交流や情報交換を通じた環境ビジネスの活性化やネットワーク構築を目的に、平成 23 年 10 月に開催した。

高知県

男も（女も）持つぞ！マイバックキャンペーンを9月～11月開催。

また、9月にはキックオフイベントとして高知市の大型店でマイバック、風呂敷等の展示、新聞紙マイバック作り体験イベントを開催。

福岡県

○九州統一マイバッグキャンペーン

10月をマイバッグキャンペーン（買い物袋持参運動）の強化月間とし、レジ袋削減に取り組む一斉行動参加店を募集する。応募のあった一斉行動参加店に対しては啓発グッズ（ポスター、ステッカー）を配付し、キャンペーン期間中等に店頭に掲示、その実施結果を報告してもらう。

長崎県

○環境月間街頭キャンペーン

6月の環境月間にともない、各種展示、実演・体験コーナー等の設置やパンフレットの配布等を通じて、地球温暖化をはじめとする環境問題に対する県民の理解と関心を深めるとともに、環境保全に関する意識の高揚・啓発を図り、環境保全活動を広めていくことを目的とする。

（6月中の1日間、長崎市内のアーケードで実施）

○九州統一マイバッグキャンペーン

九州7県合同で実施。毎年標語を募集し、強化月間の10月に協力店舗等において、ポスター掲示、マイバッグ持参率の集計報告を行う。（実施内容は各店舗において異なる）

熊本県

○熊本県ごみゼロ推進県民大会

（目的）廃棄物の3Rの取組みについて、県民の意識向上を図り、循環型社会の構築を推進するために県民大会を開催した。

（内容）

- ・マイバッグキャンペーン標語表彰
- ・ごみ減量化・リサイクル実践事例発表
- ・講演
- ・展示コーナー

（効果）約300名の参加があり、多くの県民の意識向上につながった。

大分県

○レジ袋無料配布中止

・レジ袋の削減に取組み、県内のスーパー等とレジ袋無料配布中止の協定を締結している。協定に参加した事業者は、レジ袋の無料配布を中止するとともに、有料で配布した場合はその収益金全てを、自社の環境への取組や自治体への寄付等に使用することとしている。

・幼児向け環境劇の開催

レジ袋無料配布中止協定の参加事業者から大分県が受けた寄付金を利用し、幼児向けに環境保護の大切さを伝える環境劇を開催し、観劇ホールでの公演及び幼稚園等への巡回公演を行っている。

○リデュースの推進「YES！リユース箸 NO！食べ残し」キャンペーン

・各種イベントにおけるリユース食器等の貸し出し、協賛店の募集

○リユースの推進「まだまだ使える！」キャンペーン

・修理店情報の提供等

宮崎県

○マイバッグキャンペーン啓発イベント

現在、九州各県と合同で「九州統一マイバッグキャンペーン」を行っているが、キャンペーンの時期に合わせて本県独自の啓発イベントを行った。

主な内容は以下のとおり

- 1 日時 平成 23 年 10 月 1 日（土）
- 2 会場 イオンモール宮崎
- 3 内容 マイバッグ配布、啓発パネル展等

沖縄県

○環境にやさしい買い物キャンペーンに係るパネル展示。

沖縄県では、平成 20 年度に大手流通事業者 11 者とレジ袋削減に係る協定締結をし、平成 20 年 10 月よりレジ袋の有料化を行っている。平成 23 年 7 月現在では協定締結事業者 11 社 257 店舗においてレジ袋辞退率（来店者数－使用枚数）÷来店者数×100）は 80.3%である。

◇市

仙台市

現在行なっている主なイベントは、以下のとおりである。

○エコフェスタ

本市と廃棄物処理業界団体、市民団体等からなるアメニティせんだい推進協議会との共催事業。毎年 9 月に開催。市役所前の公園においてごみ減量、リサイクルの推進に関する様々なブースを出展し、普及啓発を行なうお祭形式のイベント。

○3R 推進キャンペーン

本市と事業者団体、市民団体等からなる 3R 推進キャンペーン実効委員会との共催事業。毎年、冬季に開催。以前は、レジ袋削減のキャンペーンであったが、レジ袋削減に一定の成果があったことから、趣旨を 3R に拡大、その後、究極的な目的である CO₂ 削減にまで拡大し、現在に至っている。

市民が、様々な CO₂ 削減行動を実施し、店頭配布の応募券、インターネット等により、その内容を応募すると、抽選で賞品があたるキャンペーン。

○大学祭等での啓発イベント

本市の単独事業。毎年、大学祭等を中心に、雑がみ釣堀等ゲーム性のある催し物を行ないながら、排出ルールの遵守に問題がある若年層への普及啓発を図っている。

○レジ袋の有償配布

大規模小売店舗を中心とした 14 事業者と本市、市民団体が協定又は確認書を交わし、事業者は、レジ袋の有償提供、本市と市民団体は、普及啓発と、それぞれの立場でレジ袋の削減に取り組む体制を構築している。

現在、市内 73 店舗において実施している。

千葉市

○区民まつり等でのごみ削減PR

区民まつりにてごみ削減ブースを設け、市民向けにごみの削減啓発を行っている。また、ごみ量が増加した際に、緊急PRとしてビラ配り等も実施している。

○ちばルール協定店と連携したごみ減量PR

市民・事業者・市が協働してごみの減量とリサイクルを進めていくための行動指針「ちばルール」の協定店店頭において、ごみ削減啓発活動を行う。焼却ごみ削減の効果や今後の安定的な削減には市民一人ひとりの日常の取り組みがいかに重要であるかを呼びかけ、家庭における取組例などのPR・紹介を行う。

横浜市

各区で行われている区民まつりやスーパー等の店頭にてごみ分別や 3R の啓発及び保育園や小学校等で出前講座を実施し、ごみ分別や 3R について啓発を実施。

川崎市

○ポイ捨て禁止啓発キャンペーン

「川崎市飲料容器等の散乱防止に関する条例（通称：ポイ捨て禁止条例）」に基づき、平成 22 年 11 月に新たな重点区域を指定する際、告知及び周知を行うため啓発キャンペーンを実施。

○ごみの分別排出に係る各種キャンペーン

平成 23 年 3 月から新たに分別収集を始めたミックスペーパーを中心に、ごみと資源物の分別ルールと排出マナーの周知徹底を図るため、ごみ集積所、商店街、駅頭などにおいて、啓発キャンペーンを実施。

相模原市

○リサイクルフェア

市民のリサイクルに対する意識の高揚を図るために実施している。

○街頭キャンペーン

市内の駅頭、スーパーマーケットの店頭等でごみの分別や減量活動で日頃から疑問に感じていることの解決や啓発を実施している。

○講座型啓発

市内の自治会や地域コミュニティーへ分別講座を実施し、ごみの分別や減量活動で日頃から疑問に感じていることの解決や啓発を実施している。

静岡市

○ごみリサイクル展

市民のごみ減量化と資源化に関する意識を醸成するため、静岡市の 4 R 啓発コーナーや「もったいない！わが家のごみダイエット自慢！！」入選作品の展示など各種コーナーを設けている。

浜松市

○雑がみ分別キャンペーン

例年、本市では 5 月 30 日（ごみゼロの日）の周辺日曜日に J R 浜松駅で消費者団体連絡会等の市民団体に協力をいただき、空き缶等の投げ捨て防止キャンペーンを実施してきたが、平成 23 年度にごみ減量アクションプランを制定し、「もえるごみ」の減量を重点的に取り組んでいくことから、まだまだ市民への認知度の低いとされる「雑がみ」を周知・宣伝していくキャンペーンへ移行。雑がみに関するアンケートの実施や分別紙袋を配布し、雑がみ分別の P R を図った。

○ 3 R 推進展

19 政令指定都市及び東京 23 特別区による大都市減量化・資源化共同キャンペーンの一環として、10 月の 3 R 推進月間を中心に、市内 4 か所で分別リサイクルやごみ減量に関する市の取り組みについてのパネルやサンプルを展示した。

名古屋市

レジ袋有料化開始セレモニー：市内のスーパー等事業者とレジ袋有料化に関する協定を締結し、市民にはマイバッグ持参を周知いただくために、市内店舗で広報啓発するセレモニーを開催した。あわせて、市内スーパー・ドラッグストア等の実施店にて、チラシやマイバッグを使ってキャンペーンを実施した。

大阪市

- ・大阪市 24 区で行われる区民まつりにおいて、啓発ブースを設置し、ごみ減量・3Rの推進にかかる啓発活動を行っている。
- ・区単位でのガレージセールや大阪城において ECO フェスティバル（ガレージセール in OSAKA TOWN）を開催し、ごみ減量・3Rの推進に取り組んでいる。
- ・その他、大阪市内で開催される市民・事業者と協働したイベント等にて、啓発ブースを設置し、ごみ減量・3Rの推進にかかる啓発活動を行っている。

広島市

○広島市ごみ減らそうデー

スーパーマーケット等の事業者、市民団体及び本市で「広島市ごみ減量・リサイクル実行委員会」を組織し、毎月1日を「ごみ減らそうデー」として、当番店舗においてキャンペーンを実施し、買い物袋持参運動やトレーの店頭回収の推進、過剰包装の抑制など、市民のごみ減量意識の高揚を図っている。

○「衣・食・住」のもったいないキャンペーン

日本独自の生活文化である「もったいない」精神を、市民の衣・食・住の生活のあらゆる場面において思い起こし、生活様式を変えていくきっかけとなるよう環境意識の啓発を図ることを目的として開催している。

（平成23年度：10月30日(日)、西部リサイクルプラザで開催）

北九州市

○セタライトダウン

ライトアップに馴れた日常生活の中、電気を消すことでいかに照明を使用しているかを実感し、節電に取り組む契機とするとともに、地球温暖化について考えることを目的に、ライトダウンイベントを実施。本年度決定した「環境マスコットキャラクター」のお披露目も同時に開催した。イベントでのCO₂削減量は、昨年度の約6.3トンを上回る約10トンの削減量があり、節電意識の向上を図ることができた。

その他環境関連イベント等に多数参加。

○未来ホテルデー等

環境月間である6月に環境ミュージアムで行われる「未来ホテルデー」や12月に開催される「北九州市環境首都検定」の際に、着ぐるみが出演し活躍している。本市に存在するキャラクターとも共演している。

福岡市

平成 19 年 4 月より施行した「容器包装リサイクル法」の改正により、販売店等はレジ袋の使用量を減らすことが求められることとなったことなどから、レジ袋削減に取り組む事業者、マイバッグ持参に取り組む市民団体である「マイバッグ推進ふくおか市民の会」及び市の三者で、「レジ袋削減に関する協定」を締結し、意見交換を行うとともに、共同キャンペーンを実施する等により、マイバッグ持参によるレジ袋の削減を推進している。

なお、協定参加事業者は、平成 23 年 12 月現在で、31 事業者 505 店舗となっており、また、平成 23 年度のマイバッグキャンペーンは、協定参加事業者ののべ 14 店舗で実施した。

川口市

○親子で学ぼう環境の旅事業

環境関連施設を見学・体験することを通じて、低年齢からの環境問題への意識付けを図るもの。平成 23 年度は、先端技術館@TEPIA（東京都港区）とエスケー石鹼(株)（埼玉県川口市）を見学。

実施日：平成 23 年 8 月 9 日、参加人数：44 人

○3R 推進月間事業

環境省を含む 3R 関係府省、地方公共団体、関係団体において、毎年 10 月を 3R 推進月間と定めている。これに伴い、本市においても 10 月にさまざまなイベントを開催し、3R 推進の普及啓発活動を実施

実施日：平成 23 年 10 月 1 日から 10 月 31 日

○リサイクル体験教室

ごみ問題や資源の有効利用について理解を深めていただき、環境に配慮した生活を促進し、ごみの減量につなげるため、「古着や余り布からぞうり教室」を開催。

実施日：平成 23 年 6 月 18 日、参加人数：14 人

○ごみまるまつり in TOZUKA

開催趣旨は周辺対策であり、3R 啓発を目的としたイベントではない。

○全市一斉クリーンタウン作戦

ごみのポイ捨てを未然に防ぐため、市民を主体とした全市的な清掃活動を実施。

実施日：平成 23 年 11 月 20 日、参加人数：16,370 人

○「全国ごみ不法投棄監視ウイーク」による啓発キャンペーン

「全国ごみ不法投棄監視ウイーク」に合わせ、不法投棄を発生させない環境づくりのため、市民、事業者等と連携し、監視や啓発活動等に取り組み不法投棄の撲滅を図る。

実施期間：平成 23 年 6 月 1 日~6 月 7 日

東海市

○リサイクルフェア（写真左）

平成5年度よりごみ減量・リサイクル推進週間にちなんだ啓発事業として開催。開催は5月の最終日曜とその前の土曜、金曜の3日間で行う。内容は、ごみの中の宝物展（粗大ごみとして排出された自転車・家具等の中で再利用可能な物を、補修・洗浄して展示する。展示品は希望者に無料で譲渡する。（希望者多数の場合は抽選））、ごみ減量・リサイクル推進展示啓発（清掃センターと関係消費者団体の展示による3Rの啓発）、フリーマーケット（土日のみ開催、1日当たり32店舗を募集し開催、出展の対象は市民）等。



○リサイクル探検隊（写真中）

平成13年度より親子で楽しくリサイクルについて学習をするために、夏休み期間に親子でリサイクルルートを見学する日帰りバスツアーを開催。1日で民間資源化施設を2施設見学。



プラスチック製容器包装の中間処理施設の見学

○親子分別教室（写真下）

平成22年度より親子でごみと資源の適正排出、ごみ減量やリサイクルの重要性を親子で学ぶ場を夏休み期間に開催。講師は3Rに関心のある消費者団体に依頼し開催。



○消費者広場

11月の第2週土日に開催する市の秋まつりで開催される消費者広場において3Rの啓発展示を実施。毎年内容を変更し、3Rについて学ぶことができるように啓発を実施。消費者広場出展団体と合同で紙面によるクイズも実施。

佐賀市

○リユース品無償譲渡会

ごみ処理施設に持ち込まれた中で、まだ使えるもの（リユース品）を選定し、再使用を希望する市民へ無償で譲渡する会。平成22年度は2回開催し、ソファなど208個の品物が新たな使用者のもとへ渡った。

○エコ料理教室

エコ料理の実践とごみ減量講座の実施

○マイバッグキャンペーン

環境に関するアンケート実施、回答者にエコバッグのプレゼント

○さが環境展、環境フェスタ

展示等による3Rの取組紹介、講座

○エコプラザ（環境学習拠点）による各種イベント

おもちゃかえっこ、おもちゃ病院、エコマーケット、工場見学ツアー

◇民間団体

アルミ缶リサイクル協会

独自で主催するものはない。

エコプロ（12月 東京ビックサイト）、小樽 CanArt フェア（9月 小樽）に出展。

社団法人環境生活文化機構

○環境文化講演会

環境保全に関する生活文化及び社会経済システムに関する知識の普及啓発に努めるため、高度の学識と豊富な経験を持つ有識者を招き、毎年6月の環境月間に合わせて開催している。

※平成23年度実績

日時：平成23年6月22日（水）

場所：ホテルフロラシオン青山（東京都港区）

講師：ジャーナリスト・環境カウンセラー 崎田 裕子氏

演題：「環境と経済の好循環の共創に向けて」

NPO法人環境文明21

○政策提言

2011年3月11日以降、ひっ迫する電力不足問題に注目が集まり、様々な意見が飛び交う中で、環境文明21が1999年に発表した「飲料自動販売機の適正な設置、管理、運営及び利用に関する条例のモデル」について再考したいというご意見が広く寄せられた。そこで、当時刊行したブックレット『飲料自動販売機から見える環境問題』を見直し、12年余経つ今でも、十分に通用すると判断し、改めて条例のモデルを提言している。

建設副産物リサイクル広報推進会議

○技術発表会・技術展示会

毎年、3R月間である10月に開催。

昨年の技術展示会は、10月26・27日の2日間にわたり、JRさいたま新都心駅自由通路で開催。パネル・模型・ビデオ等を用いて建設リサイクルに関する各社の技術を展示。

技術発表会は、10月27日にさいたま新都心合同庁舎講堂にて開催（500名定員規模）。災害に関する特別講演と、各社・各団体の建設リサイクルに関する取り組みを発表。

○広報用ポスター

建設リサイクルの啓発・普及を広報するためのポスターを作成・販売。

ポスターのキャッチコピーを建設業関係の方を中心に募集。

東京メトロ駅構内及び高速道路サービスエリア等へポスターを貼り出している。

スチール缶リサイクル協会

現在行っている主な普及啓発事業

- ・全国小中高等学校向けスチール缶リサイクルポスターコンクール
- ・全国小中学校向け環境教育支援事業
- ・スチール缶集団回収支援事業
- ・協働型集団回収セミナー
- ・散乱防止キャンペーン活動
- ・地域の環境展への出展による美化・リサイクル啓発
- ・美化・リサイクル推進に資する広報誌発行配布
- ・製鐵所等施設見学会
- ・全国まち美化連絡会議への協賛
- ・学校・市民団体等への出前授業
- ・NPO・市民団体の環境活動への支援
- ・地域での清掃活動への物的支援

いずれも、ポイ捨て防止・環境美化・リサイクル推進等、国民の環境意識に向上に資するため

一般社団法人パソコン3R推進協会

<出展イベント>

- ・環境広場さっぽろ 2012
- ・エコプロダクツ 2012
- ・びわ湖環境ビジネスメッセ 2012
- ・エコプロダクツ東北 2012 など

<目的>

PCリサイクル制度の普及啓発

<内容>

パソコンを利用したパソコンリサイクルクイズの実施

第5章 アンケート結果の概要

都道府県・政令指定都市、会員団体に対して、3Rの啓発用グッズ等について、その必要性・有効性及び課題、また3R活動推進フォーラムへの要望等についてアンケート調査を実施し、28府県、18市、7民間団体から回答をいただいた。その結果、多くの団体ではグッズ等による啓発活動は有効と考えているが、より効果のあるグッズの選定等が課題であること、グッズ製作に必要な予算の確保が困難なってきたこと、などの状況が明らかになった。

以下に、アンケートの回答の概要を紹介する（自治体・団体名は省略）。

28 府県の回答概要

◆必要性について

【必要】

○県が推進する事業について県民への周知と意識の定着のため、ホームページや広報誌と並んで、啓発グッズも必要であると考えている。

○県民向けアンケート等や子供への啓発イベントを行う際、粗品として渡せるグッズがあると効果的

【必要ない】

○今のところ、必要だとは考えていない。

○現時点では、必要性を感じていない。

◆有効性について

【有効】

○イベントに集まる方の特徴等を考慮し、啓発グッズを配布することは、一定の効果があると考えている。23年度は、一般的なイベントではクイズの実施やマイバックの配布を実施する一方、飲み物を持ち運ぶ参加者が多いウォーキングのイベントでは、マイボトルの使用を推進するリストバンドを配布した。

○グッズの配布が、施策の普及啓発にすべてつながるわけではないが、関心を持っていただくためのツールのひとつとして、有効であると考えている。

○イベントでの集客に、グッズを活用するのは有効ではあるが、すぐにごみになるようなものでは3Rの趣旨に反するので、適切でない。県民に大切に使用していただけるグッズは何か、県民ニーズの把握が必要。

○認知度が高いキャラクターのグッズ使用であれば効果はあるが、そうでなければ、キャラクター使用の必要はないと考える

○グッズであれば手元に置いてもらえるため、有効性が高いと考える。クリアファイルは、チラシ等を一緒に入れて配ることができるため、情報量を増やす利点がある。

○啓発事業の実施にあたって、幅広い対象者に対して周知の可能となるポスター等の啓発グッズの有効性は高いが、作成費用や効果的な周知・啓発が可能となる掲示場所等についてさらなる検討を進めていく必要がある。

○3Rをはじめとしたゴミの減量は、県民一人一人の心がけ次第であり、環境に関するグッズ等を配布することで、県民への啓発につながる。

○日常使うグッズ等は、県民にメッセージを伝える際の手段としては有効と考えるが、経費削減が必要な現状では十分な数が作成できない。

○県民向けアンケート等や子供への啓発イベントを行う際、粗品として渡せるグッズがあると効果的

【効果に疑問等】

○グッズがあるとイベント等での集客には役立つと思うが、県予算が厳しい中、施策の推進に有効であるか疑問があるため、作成するのも難しい状況である。

○チラシやパンフレットの配布だけでは、棄てられてしまう可能性が高く、3Rの観点から疑問がある。

○費用対効果で判断し、現在啓発グッズは活用していない。

◆課題について

【予算確保が困難】

○単なる集客のためのグッズは、その必要性や有効性について財政担当から厳しく査定されること、本当に興味がある方々は、グッズがなくても参加することから、グッズの提供について、相当の効果を示さないと厳しい状況になってきている。

○財政状況が厳しい中で、啓発物品に係る新たな予算確保が難しい。

○県民に効果的に啓発できるようなグッズの制作が難しい。予算措置が困難である。

○予算の確保

○予算の確保が難しいこと。

【効果的なグッズの作成】

○限られた予算の中で、より多くの方に向けて効率よく啓発ができるようなグッズとイベントを考えていく必要がある。

○すぐにごみになるようなものでは3Rの趣旨に反するので、適切でない。県民に大切に使用していただけるグッズは何か、県民ニーズの把握が必要。

○啓発の費用対効果が高いグッズを作成すること。

○作成したポスター、リーフレットをより効果的に普及啓発に活かすことが課題

○啓発グッズは主に環境イベント等で配布しているが、そのようなイベントに会場される方はある程度環境に関心があると考えられる。広報等でも発信はしているが、環境にそれほど関心のない県民に対してどのような啓発が有効かは常に検討課題である。

○グッズの作成・配布は、イベント等の集客アップにはなるが、それをいかに普及啓発に繋げるかが課題

◆3R活動推進フォーラムへの要望等

○フォーラムの開催にあたっては、講師の選定に非常に苦慮している。そのため、いままでの講師実績、契約金額等を情報提供していただければ業務の参考になる。

○企業や企業団体と地方公共団体とを繋ぐ役割を發揮し、研修や普及啓発について、企業の取組の紹介、地方公共団体との協同、市町村とモデル事業の実施などのメニューを提示してほしい。

○3Rに関する県民向けの啓発活動に協力していただきたい。イベント等で使用できる垂れ幕やポスター等の貸出をしていただきたい。

○県民が行う3R活動（マイバッグやマイボトルの持参、簡易包装、食べ残しの削減、生ごみの堆肥化など）により、ごみがどのくらい減るのか、またCO₂がどのくらい削減されるのかをまとめた県民向け及び事業者向けのパンフレットがあると良い。

- 子供への環境教育に利用(貸出)できる啓発資材(冊子、DVD、紙芝居等)があると良い。費用対効果が高い普及啓発事例の調査・紹介
- 3Rに関する講演会等に派遣できる講師の情報をホームページに掲載してほしい。
- 無料で提供していただける画像、啓発物品等があれば、今後も活用したい。
- 最新のリサイクル技術や、その事例発表の勉強会を開催してほしい。(特に陶磁器リサイクル) またその講師を派遣もしくは紹介してほしい。
- 子ども向けの研修(授業?)についてのノウハウがあれば、提供していただくと助かる。
- 住民、事業者、行政が連携したリデュース、リユースにつながる取組みを推進すべきであるとする。(リサイクルについては、リサイクル事業者の技術革新が進み、経済的にも採算ベースにあるため、今後も推進されると考えるが、住民が直接関与できるのは排出抑制と再使用が大きい)

18市の回答概要

◆必要性について

【必要】

- 啓発グッズは必要と考えるが、予算の確保が困難。

◆有効性について

【有効】

○グッズ等を利用した啓発活動は、ごみについて感心のない人にもアピールができ大変有効な手段のひとつと考えてる。

○普及啓発にグッズ等の必要性・有効性はあると考える。ただ、持ち帰ってもらうことにより、情報の伝達とPR効果が期待できるものが少ない。また、客寄せとして配布することは望ましくなく(バラマキ型)、イベントやキャンペーンに即したアイテムを探すのが困難(種類・値段など)。

○大都市減量化・資源化共同キャンペーン事業による、各政令指定都市で共同してポスター及び啓発物品の作成をし、普及啓発を実施している。有名な既存著作権キャラクターを用いたグッズを、イベント等で配布しているところであり、例年好評である。

○キャラクターを使用することにより、低年齢から興味・関心を持ってもらうことができ、啓発にとって有効な手段であると思われる。

○買物袋持参運動として、平成17年度から環境に関するアンケートの協力者にエコバッグをプレゼントしてきた。市内のレジ袋辞退率は年々上昇し、平成23年度には「他にも持っているから」とプレゼント受取りを辞退される人も数名でてきた。今後はエコバッグ配布以外の手法で、買物袋持参が定着するしかけを検討しようと考えている。

○啓発グッズは、関心の少ない層や子どもたちへPRするためのツールとして有効であり、PR活動を行っていくために必要である。

ただ、毎年決まった啓発グッズのみになっているので、新しいグッズの検討が必要

【効果が不明】

- 有効性が不明

◆課題等について

- 予算も限られているので、どのような啓発品を配布するのが最も効果的かを見定める必要がある。
- コストに見合う効果が見えにくいため、経費削減の対象となり、数量の確保が難しい。
- 作成するグッズの効果の検証やその数値化方法が明確でないため、次の展開につなげにくい。
- 代表的なエコグッズであるマイバッグやマイタンブラーはすでに広く普及しており、それらに代わる新たな啓発物品の選定に苦慮している。
- 極力、グッズを配布しないキャンペーンを模索している。
- キャラクターの形状が複雑なため、型を作成して作るグッズ等は作成が困難であり、作成単価も上がってしまう。
- グッズは使いたくなるデザインなどが求められる。
- マイバッグやマイ箸等の啓発グッズを活用してイベント等の啓発活動を行っているが、啓発グッズがマンネリ化しており、新たな啓発グッズがあればよいと考える。

◆3R活動推進フォーラムへの要望等

- 3Rの取り組み（詰替え用商品を使う等）による減量効果やCO₂削減量を紹介してもらいたい。市からの広報物等のバックデータとして使用したい。

7 民間団体の回答概要

◆必要性について

【必要ない】

- 特に必要性を感じていない。

◆有効性について

【有効】

- エコグッズ（買い物袋等）であればレジ袋対策などに役立ち効果的と考える。
- 回収ポリ袋は、初参加団体むけ実用として使用している。

【効果に疑問】

- グッズがあれば、集客力は上昇するが、目的の啓発が推進されるかは疑問。

◆課題等について

- 3Rのなかでも特にリデュース発生抑制に力を入れている。グッズ等の必要性や配布の検討を見直す段階に来ているのではないかと考えている。
- イベント活動やグッズ販売をリサイクル月間に合わせて行っているが、なかなかそれだけに携わることが出来る人員を確保することが難しい。イベント開催の場所や協力団体が毎年変わるため、なかなかシステムチックに行うことが出来ない。
- 無料のグッズ収集だけを目的にする来場者がいる。大都市と地方ではグッズに対する関心や欲しがらるグッズが異なる。
- マグネットは参加賞的なもので大きな意味はなく、別のものが検討課題。

◆3R活動推進フォーラムへの要望等

- 消費者向けの研修・普及啓発の催しの検討
- 消費者・自治体・事業者の連携に資する事業の検討
- 各主体の役割の達成度や主体間連携について、シンポジウムを開催してほしい。

資料編 関係団体連絡先一覧

- ◇都道府県
- ◇市
- ◇民間団体

■都道府県

(○は第1章～3章に資料を掲載している自治体・団体)

都道府県名	担当部署	郵便番号	住所	電話番号	資料
北海道	環境生活部環境局循環型社会推進課	060-8588	札幌市中央区北3条西6	011-204-5197	
青森県	環境生活部環境政策課	030-8570	青森市長島1-1-1	017-734-9249	○
岩手県	環境生活部資源循環推進課	020-8570	盛岡市内丸10-1	019-629-5368	○
宮城県	環境生活部資源循環推進課	980-8570	仙台市青葉区本町3-8-1 (13階)	022-211-2656	
秋田県	生活環境部温暖化対策課	010-8570	秋田市山王4-1-1	018-860-1573	○
〃	生活環境部環境整備課	010-8570	秋田市山王4-1-1	018-860-1622	○
山形県	生活環境部循環型社会推進課	990-8570	山形市松波2-8-1	023-630-3044	
福島県	生活環境部一般廃棄物課	960-8670	福島市杉妻町2-16	024-521-7249	○
茨城県	生活環境部廃棄物対策課	310-8555	水戸市笠原町978-6	029-301-3020	○
栃木県	環境森林部地球温暖化対策課	320-8501	宇都宮市塙田1-1-20	028-623-3297	○
群馬県	環境森林部廃棄物・リサイクル課	371-8570	前橋市大手町1-1-1	027-226-2852	○
埼玉県	環境部資源循環推進課	330-9301	さいたま市浦和区高砂3-15-1	048-830-3110	○
千葉県	環境生活部資源循環推進課	260-8667	千葉市中央区市場町1-1	043-223-2760	○
東京都	環境局廃棄物対策部資源循環推進課	163-8001	新宿区西新宿2-8-1	03-5388-3577	
神奈川県	環境農政局環境保全部資源循環課	231-8588	横浜市中区日本大通1	045-210-4151	○
新潟県	県民生活・環境部廃棄物対策課	950-8570	新潟市中央区新光町4-1	025-280-5160	○
富山県	生活環境文化部環境政策課	930-8501	富山市新総曲輪1-7	074-444-9618	○
石川県	環境部廃棄物対策課	920-8580	金沢市鞍月1-1	076-225-1471	
福井県	安全環境部循環社会推進課	910-8580	福井市大手3-17-1	0776-20-0317	○
山梨県	森林環境部環境創造課	400-0031	甲府市丸の内1-6-1	055-223-1503	○
長野県	環境部廃棄物対策課	380-8570	長野市南長野幅下692-2	026-235-7181	
岐阜県	環境生活部廃棄物対策課	500-8570	岐阜市藪田南2-1-1	058-272-8214	○
静岡県	くらし・環境部廃棄物リサイクル課	420-8601	静岡市葵区追手町9-6	054-221-2426	○
愛知県	環境部資源循環推進課	460-8501	名古屋市中区三の丸3-1-2	052-954-6234	
三重県	環境森林部ごみゼロ推進室	514-8570-	津市広明町13	059-224-3126	○
滋賀県	琵琶湖環境部循環社会推進課 ごみゼロ支援	520-8577	大津市京町4-1-1	077-528-3472	
京都府	文化環境部循環型社会推進課	602-8570	京都市上京区下立売通新町西入	075-414-4719	○
大阪府	環境農林水産部循環型社会推進室	559-8555	大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎21階	06-6210-9566	
兵庫県	農政環境部環境整備課	650-8567	神戸市中央区下山手通5-10-1	078-341-7711	○
奈良県	くらし創造部景観・環境局廃棄物対策課	630-8501	奈良市登大路町30	0742-27-8746	
和歌山県	環境生活部環境政策局循環型社会推進課	640-8585	和歌山市小松原通1-1	073-441-2696	○

鳥取県	生活環境部循環型社会推進課	680-8570	鳥取市東町 1-220	0857-26-7198	
島根県	環境生活部廃棄物対策課	690-8501	松江市殿町 1	0852-22-6237	
岡山県	環境文化部循環型社会推進課	700-8570	岡山市内山下 2-4-6	086-226-7306	
広島県	環境県民局環境部循環型社会課	730-0011	広島市中区基町 10-52	082-513-2951	
山口県	環境生活部廃棄物・リサイクル対策課	753-8501	山口市滝町 1-1	083-933-2992	○
徳島県	県民環境部環境局環境整備課	770-8570	徳島市万代町 1-1	088-621-2267	
香川県	環境森林部廃棄物対策課	760-8570	高松市番町 4-1-10	087-832-3223	○
愛媛県	県民環境部環境局循環型社会推進課	790-8570	愛媛県松山市一番町 4-4-2	089-912-2356	○
高知県	林業振興・環境部環境対策課	780-8570	高知市丸ノ内 1-7-52	088-821-4524	○
福岡県	福岡県庁環境部循環型社会推進課	812-8577	福岡市博多区東公園 7-7	092-643-3371	○
佐賀県	くらし環境本部循環型社会推進課	840-8570	佐賀市城内 1-1-59	0952-25-7774	
長崎県	環境部未来環境推進課	850-8570	長崎県長崎市江戸町 2-13	095-895-2511	○
熊本県	環境生活部環境局廃棄物対策課	862-8570	熊本市水前寺 6-18-1	096-333-2277	○
大分県	生活環境部地球環境対策課	870-8501	大分市大手町 3-1-1	097-506-3124	○
宮崎県	環境森林部循環社会推進課	880-8501	宮崎市橘通東 2-10-1	0985-26-7081	○
鹿児島県	環境林務部廃棄物・リサイクル対策課	890-8577	鹿児島市鴨池新町 10-1	099-286-2594	
沖縄県	環境生活部環境整備課	900-8570	那覇市泉崎 1-2-2	098-866-2231	○

■市

市名	担当部署	郵便番号	住所	電話番号	資料
札幌市	環境局環境事業部ごみ減量推進課	060-8611	札幌市中央区北 1 条西 2 12 階	011-211-2928	
仙台市	環境局廃棄物事業部ごみ減量推進課	980-0811	仙台市青葉区一番町 4-7-17 小田急仙台ビル 10 階	022-214-8230	○
さいたま市	環境局資源循環推進部資源循環政策課	330-9588	さいたま市浦和区常盤 6-4-4	048-829-1337	
千葉市	環境局資源循環部廃棄物対策課	260-8722	千葉市中央区千葉港1-1	043-245-5603	○
横浜市	資源循環局 3 R 推進課	231-0013	神奈川県横浜市中区住吉町 1-13	045-671-2530	○
川崎市	環境局生活環境部減量推進課	210-8577	川崎市川崎区宮本町 1	044-200-2580	○
相模原市	資源循環部資源循環推進課	252-5277	相模原市中央区中央 2-11-15	042-769-8245	○
新潟市	環境部廃棄物対策課	951-8550	新潟市中央区学校町通 1 番町 602-1	025-226-1407	
静岡市	環境局廃棄物対策部廃棄物政策課	420-8602	静岡市葵区追手町 5-1	054-221-1075	○
浜松市	環境部資源廃棄物政策課	432-8550	浜松市中区鴨江 2-11-2	053-453-6192	○

名古屋市	環境局ごみ減量部減量推進室	460-8508	名古屋市中区三の丸 3-1-1	052-972-2398	○
京都市	環境政策局循環型社会推進部 循環企画課	604-8571	京都市中京区寺町通御 池上る上本能寺前町 488番地	075-222-3450	
大阪市	環境局環境施策部資源循環課	545-0052	大阪市阿倍野区阿倍 野筋 1-5-1 あべ のルシアス 13階	06-6630-3258	○
堺市	環境局環境事業部クリーンセ ンター東工場	590-0078	堺市堺区南瓦町 3-1	072-228-7479	
神戸市	環境局減量リサイクル推進課	650-8570	神戸市中央区加納町 6-5-1 3号館 6階	078-322-5299	○
岡山市	環境企画総務課	700-8544	岡山市北区大供 1-1-1	086-803-1292	○
広島市	環境局環境政策課	730-8586	広島市中区国泰寺町 1-6-34	082-504-2748	○
北九州市	環境局循環社会推進部循環社 会推進課	803-8501	北九州市小倉北区域 内 1-1	093-582-2187	○
福岡市	循環型社会推進部家庭ごみ対 策課	810-8620	福岡市中央区天神 1-8-1	092-711-4346	○
川口市	環境部廃棄物対策課	332-0111	川口市朝日 4-21-33 リ サイクルプラザ 3階	048-228-5370	○
船橋市	環境部クリーン推進課	273-8501	船橋市湊町 2-10-25	047-436-2433	○
東海市	環境経済部清掃センター	476-0003	東海市荒尾町奥山 10-48	052-601-2053	○
佐賀市	環境下水道部循環型社会推進 課	849-0917	佐賀市高木瀬町大字長瀬 2369 佐賀市清掃工場	0952-30-2430	○

■民間団体

団体名	担当部署	郵便番号	住所	電話番号	資料
アルミ缶リサイクル 協会	事務局	107-0052	港区赤坂 2-13-13 ア プセンタービル 3階	03-3582-9755	○
(社)環境生活文化機構	事務局	105-0003	港区西新橋 1-20-10 サ ンライズ山西ビル 6F	03-5511-7331	○
(NPO) 環境文明21	事務局	145-0071	大田区田園調布 2-24-23-301	03-5483-8455	○
建設副産物リサイク ル広報推進会議	(財)先端建設技 術センター企画部	112-0012	文京区大塚 2-15-6 ニッセ イ音羽ビル 4階(財)先端 建設技術センター内	03-3942-3991	○
スチール缶リサイク ル協会	事務局	104-0061	中央区銀座 7-16-3 日 鉄木挽ビル 1F	03-5550-9431	○
(一社)パソコン3R 推進協会	事務局	101-0052	千代田区神田小川町 3-8	03-5282-7820	○

自治体・団体の3R啓発活動事例集

平成24年3月

3R活動推進フォーラム

〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F

(公財)廃棄物・3R研究財団 内

TEL 03-6908-7311 FAX 03-56381-7164

ホームページ <http://3r-forum.jp>



この製品は、古紙パルプ配合率 100%の再生紙を使用しています。このマークは、3 R 活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。